

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 慶應義塾
理事長 伊藤 公平

慶應義塾大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒108-8345 東京都港区三田二丁目15番45号
氏名	学校法人 慶應義塾

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

慶應義塾大学病院

3 所在の場所

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
電話(03)3353-1211

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☐	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
☐	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科					有		
内科と組み合わせた診療科名等							
☐	1呼吸器内科	☐	2消化器内科	☐	3循環器内科	☐	4腎臓内科
☐	5神経内科	☐	6血液内科	☐	7内分泌内科	☐	8代謝内科
☐	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			☐	11リウマチ科
診療実績							
アレルギー科については、皮膚科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、消化器内科、呼吸器内科が、それぞれの専門領域でアレルギーに関する診療を行っている。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
内分泌疾患に対する診療は、内分泌内科において、脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、小児科、産婦人科、放射線科等と連携し、包括的な内分泌診療を提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	漢方内科	2	腫瘍内科	3	内視鏡外科	4	移植外科	5	腫瘍外科
6	形成外科	7	頭頸部外科	8	リハビリテーション科	9	病理診断科	10	臨床検査科
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
16				934	950

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	732	8.6	740.6	看護補助者	81	診療エックス線技師	0
歯科医師	20	0.6	20.6	理学療法士	19	臨床検査技師	181
薬剤師	117	6.6	123.6	作業療法士	5	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	19	その他	0
助産師	54	0	54.0	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	1,228	12.2	1,240.2	臨床工学士	38	医療社会事業従事者	10
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	73
歯科衛生士	5	0	5.0	歯科技工士	3	事務職員	267
管理栄養士	15	0	15.0	診療放射線技師	107	その他の職員	8

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	89	眼科専門医	17
外科専門医	61	耳鼻咽喉科専門医	14
精神科専門医	15	放射線科専門医	39
小児科専門医	28	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	16	整形外科専門医	34
泌尿器科専門医	12	麻酔科専門医	25
産婦人科専門医	31	救急科専門医	14
		合計	405

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (福永 興壺) 任命年月日 令和 7 年 10 月 1 日

- ・呼吸器内科 診療科部長として科内の安全管理
平成30年5月-令和7年9月
- ・医療安全管理委員会への参加
令和3年10月-令和7年9月 副病院長としてオブザーバー参加
令和7年10月-現在 病院長としてオブザーバー参加
- ・病院執行部として病院全体の安全管理
令和元年10月-令和3年8月 病院長補佐として管理補佐
令和3年9月-令和7年9月 副病院長として管理補佐
- ・病院長として全体管理
令和7年10月-現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	737.6 人	6.1 人	743.7 人
1日当たり平均外来患者数	3,043.4 人	148.7 人	3,192.1 人
1日当たり平均調剤数	6,278.9		剤
必要医師数	245		人
必要歯科医師数	9		人
必要薬剤師数	79		人
必要(准)看護師数	479		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	563 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	28 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	451	m ²	病床数	35 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	40			m ²
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	836 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 分析器など			
細菌検査室	219 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 分析器など			
病理検査室	378 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 分析器など			
病理解剖室	187 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖設備など			
研究室	29,186 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンバーなど			
講義室	1453 m ²	鉄筋コンクリート	室数	7 室	収容定員	1191 人
図書室	1,736 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	441,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	77.7 %	逆紹介率	87.9 %
算出根拠	A: 紹介患者の数		24,336 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		32,285 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,207 人
	D: 初診の患者の数		36,732 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
山口 徹	国家公務員共済組合連 合会 虎の門病院 名誉院長	○	虎の門病院の元病院長であり、病院管理者として医療安全管理に携わり、幅広い知識と豊富な実務経験を有する。また現在は日本医療安全調査機構の顧問として日本の医療安全の推進と教育に尽力されている。	無	1
宇都宮 啓	公益財団法人 日本建築衛生管理 教育センター 理事長 他		厚生労働医官として永年にわたり国内の医療行政に従事するとともに(2018-2019:健康局長など)、WHOにも派遣され、医療安全および国際的基準での対応について幅広い知識と国内・国外における経験を有する。	無	1
竹下 千尋	コーリング法律事務所 代表弁護士		法曹界に身をおき、法律についての豊富な専門知識と実務経験を有する。	無	1
福井 トシ子	国際医療福祉大学大学 院 副大学院長		日本看護協会の元会長であり、永年にわたり看護界を牽引され、看護管理者および看護教育者として、患者安全管理について十分な知識と実務経験を有する。	無	1
山口 育子	認定NPO法人 ささえあい医療 人権センターCOML 理事長 他		医療を受ける者の立場を代表する患者支援団体の理事長として医療安全管理についての知識を有する。また厚生労働省や日本医療安全調査機構等において各種委員を務めるなど、医療安全の向上のために幅広く活動し、尽力されている。	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ウェブサイトに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
子宮内膜擦過術	0人
子宮内膜刺激術	0人
子宮内膜受容能検査1	6人
子宮内細菌叢検査1	7人
膜構造を用いた生理学的精子選択術	2人
内視鏡的胃局所切除術	8人
内視鏡的憩室隔壁切開術	0人
血中循環腫瘍DNAを用いた微小残存病変量の測定	3人
先進医療の種類の合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	26人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	0人
テモゾロミド用量強化療法	0人
反復経頭蓋磁気刺激療法	0人
イマチニブ経口投与及びペムブロリズマブ静脈内投与の併用療法	2人
抗腫瘍自己リンパ球移入療法	1人
ネシツムマブ静脈内投与療法	0人
生体肝移植術(切除が不可能な肝門部胆管がん)	0人
生体肝移植術(切除が不可能な転移性肝がん(大腸がんから転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。))	0人
自家濃縮骨髄液局所注入療法	2人
先進医療の種類の合計数	9
取扱い患者数の合計(人)	5人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	トラスツズマブ エムタンシン 静脈内投与療法	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 現時点で乳房外パジェット病に投与できる薬剤や治療法には、保険収載されているものがなく、標準治療がない状況です。 乳房外パジェット病に対するHER2阻害薬治療としては、過去にトラスツズマブによる治療の症例報告があり、本邦では当院において、HER2陽性乳房外パジェット病を対象とした、トラスツズマブ、ドセタキセル併用療法の臨床試験を先進医療Bとして実施していました(2019年4月症例登録終了)。 一方で、乳房外パジェット病に対してトラスツズマブ エムタンシンを用いて治療を行った臨床試験はありませんが、トラスツズマブによる治療歴のあるHER2陽性乳癌に対してはすでに安全性、有効性が確立された治療法であり、海外においても、乳癌に対する本治療の有用性は検証・確立しており、乳房外パジェット病においてもその効果が期待されます。 この患者申出療養制度に基づく臨床試験では、HER2陽性の手術不能又は再発乳房外パジェット病の患者さんのうち、過去にトラスツズマブによる治療を受けたなど、定められた基準を満たした患者さんに対してトラスツズマブ エムタンシンを用いた治療を21日おきに行い、有効性について評価します。治療による副作用についても評価します。有効である場合、最長で2年間の投与が可能な試験になっています。			
医療技術名	マルチプレックス遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく分子標的治療	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 保険診療もしくは先進医療として実施されている遺伝子パネル検査を受け、actionableな遺伝子異常(反応が期待できる治療薬があるような遺伝子異常)を有することが判明したものの、該当する治験や先進医療に参加できないような患者さんの申出に基づいて行います。本療養に組み込まれている医薬品のうち当該遺伝子異常に対応する適応外薬を患者申出療養制度に基づいて投与し、安全性や有効性を評価することを目的としています。			
医療技術名	経皮的胸部悪性腫瘍凍結融解壊死療法	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 経皮的凍結融解壊死療法は、局所麻酔下にごがんへ凍結針を刺し、がんを凍らせて壊死させる治療法です。本治療法は、放射線療法や化学療法とは全く異なるメカニズムでがん細胞を壊死させるため、放射線療法や化学療法が効きにくいがんに対しても効果が期待されます。また、治療後に呼吸機能が低下しないことも特徴のひとつです。放射線療法との違いとして、凍結部位に再発を来した場合には繰り返し治療が行えるというメリットもあります。 近年、胸部悪性腫瘍に対する本治療法の安全性と長期治療成績について、科学的根拠が得られてきていますが、過去当院においても約240名の肺悪性腫瘍の患者さんにこの治療を行っていました(2002年～2016年)。 一方で、現在本邦において、本治療法で使用する医療機器はいずれも小径腎悪性腫瘍のみを治療対象として保険適用されています。 この患者申出療養制度に基づく臨床試験では、肺悪性腫瘍、縦隔悪性腫瘍、胸膜悪性腫瘍又は胸壁悪性腫瘍の患者さんのうち、手術・放射線療法・化学療法など標準治療を受けられないもしくはそれらの治療後に再発を来したなど、定められた基準を満たした患者さんに対して経皮的凍結融解壊死療法を行い、有効性や安全性について評価します。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	3
取扱い患者数の合計(人)	22

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	筋萎縮性側索硬化症	17	51	原発性免疫不全症候群	10
2	脊髄性筋萎縮症	3	52	IgA腎症	45
3	原発性側索硬化症	1	53	多発性嚢胞腎	34
4	進行性核上性麻痺	7	54	黄色靱帯骨化症	10
5	パーキンソン病	203	55	後縦靱帯骨化症	55
6	大脳皮質基底核変性症	2	56	広範脊柱管狭窄症	3
7	シャルコー・マリー・トゥース病	4	57	特発性大腿骨頭壊死症	50
8	重症筋無力症	272	58	下垂体性ADH分泌異常症	25
9	多発性硬化症／視神経脊髄炎	231	59	下垂体性PRL分泌亢進症	8
10	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	14	60	クッシング病	4
11	封入体筋炎	1	61	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	16
12	クロー・深瀬症候群	1	62	下垂体前葉機能低下症	76
13	多系統萎縮症	16	63	先天性副腎皮質酵素欠損症	23
14	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	35	64	サルコイドーシス	48
15	ライソゾーム病	22	65	特発性間質性肺炎	18
16	ミトコンドリア病	3	66	肺動脈性肺高血圧症	112
17	もやもや病	35	67	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	179
18	HTLV-1関連脊髄症	2	68	リンパ脈管筋腫症	3
19	全身性アミロイドーシス	111	69	網膜色素変性症	46
20	遠位型ミオパチー	2	70	バッド・キアリ症候群	4
21	神経線維腫症	84	71	特発性門脈圧亢進症	4
22	天疱瘡	88	72	原発性胆汁性胆管炎	56
23	表皮水疱症	14	73	原発性硬化性胆管炎	52
24	膿疱性乾癬(汎発型)	6	74	自己免疫性肝炎	40
25	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	75	クローン病	698
26	中毒性表皮壊死症	1	76	潰瘍性大腸炎	1353
27	高安静脈炎	47	77	好酸球性消化管疾患	10
28	巨細胞性動脈炎	35	78	腸管神経節細胞僅少症	3
29	結節性多発動脈炎	26	79	CFC症候群	1
30	顕微鏡的多発血管炎	19	80	チャージ症候群	1
31	多発血管炎性肉芽腫症	43	81	若年性特発性関節炎	9
32	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	30	82	TNF受容体関連周期性症候群	1
33	悪性関節リウマチ	25	83	先天性ミオパチー	1
34	バージャー病	2	84	筋ジストロフィー	14
35	原発性抗リン脂質抗体症候群	9	85	脊髄空洞症	7
36	全身性エリテマトーデス	474	86	脊髄髄膜瘤	1
37	皮膚筋炎／多発性筋炎	160	87	脳表ヘモジデリン沈着症	2
38	全身性強皮症	135	88	前頭側頭葉変性症	1
39	混合性結合組織病	58	89	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1
40	シェーグレン症候群	231	90	レノックス・ガストー症候群	2
41	成人発症スチル病	70	91	結節性硬化症	16
42	再発性多発軟骨炎	11	92	先天性魚鱗癬	6
43	ベーチェット病	96	93	家族性良性慢性天疱瘡	2
44	特発性拡張型心筋症	56	94	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	53
45	肥大型心筋症	35	95	眼皮膚白皮症	1
46	再生不良性貧血	35	96	マルファン症候群／ロイス・ディーツ症候群	22
47	自己免疫性溶血性貧血	1	97	エーラス・ダンロス症候群	11
48	発作性夜間ヘモグロビン尿症	12	98	ウィルソン病	9
49	免疫性血小板減少症(旧称:特発性血小板減少性紫斑病)	75	99	VATER症候群	1
50	血栓性血小板減少性紫斑病	2	100	クルーゾン症候群	5

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
101	アペール症候群	2	141	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
102	ファイファー症候群	1	142	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	2
103	歌舞伎症候群	1	143	クロンカイト・カナダ症候群	6
104	多脾症候群	2	144	非特異性多発性小腸潰瘍症	5
105	無脾症候群	2	145	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	1
106	ウェルナー症候群	1	146	総排泄腔外反症	4
107	プラダー・ウィリ症候群	3	147	総排泄腔遺残	5
108	22q11.2欠失症候群	2	148	先天性横隔膜ヘルニア	2
109	修正大血管転位症	2	149	乳幼児肝巨大血管腫	1
110	完全大血管転位症	4	150	胆道閉鎖症	33
111	単心室症	2	151	アラジール症候群	1
112	三尖弁閉鎖症	5	152	IgG4関連疾患	67
113	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3	153	黄斑ジストロフィー	1
114	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	5	154	若年発症型両側性感音難聴	1
115	ファロー四徴症	15	155	遅発性内リンパ水腫	1
116	両大血管右室起始症	1	156	好酸球性副鼻腔炎	43
117	エプスタイン病	1	157	先天性僧帽弁狭窄症	1
118	アルポート症候群	2	158	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
119	一次性ネフローゼ症候群	35	159	前眼部形成異常	1
120	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	160	無虹彩症	6
121	紫斑病性腎炎	4	161	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	1
122	オスラー病	34	162	特発性多中心性キャッスルマン病	33
123	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1			
124	肺胞低換気症候群	2			
125	複合カルボキシラーゼ欠損症	1			
126	筋型糖原病	1			
127	肝型糖原病	4			
128	脳腱黄色腫症	1			
129	家族性地中海熱	10			
130	慢性再発性多発性骨髓炎	2			
131	強直性脊椎炎	71			
132	肋骨異常を伴う先天性側弯症	5			
133	骨形成不全症	1			
134	軟骨無形成症	3			
135	リンパ管腫症/ゴーハム病	13			
136	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	15			
137	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	3			
138	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1			
139	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	13			
140	先天性赤血球形成異常性貧血	1			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	162
合計患者数(人)	6,510

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 情報通信機器を用いた診療に係る基準	・ 呼吸ケアチーム加算
・ 医療DX推進体制整備加算	・ 術後疼痛管理チーム加算
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 病棟薬剤業務実施加算1・2
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ データ提出加算2(200床以上)
・ 歯科外来診療感染対策加算4	・ 入退院支援加算2
・ 特定機能病院入院基本料	・ 医療的ケア児(者)入院前支援加算
・ 救急医療管理加算	・ 認知症ケア加算1・2
・ 超急性期脳卒中加算	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 診療録管理体制加算3	・ 精神疾患診療体制加算
・ 医師事務作業補助体制加算2	・ 精神科急性期医師配置加算2
・ 急性期看護補助体制加算2	・ 排尿自立支援加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 地域医療体制確保加算
・ 療養環境加算	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 放射線治療病室管理加算	・ 特定集中治療室管理料2・3
・ 無菌治療室管理加算1・2	・ ハイケアユニット入院医療管理料1
・ 緩和ケア診療加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 小児入院医療管理料1
・ 精神科リエゾンチーム加算	・
・ 摂食障害入院医療管理加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染対策向上加算1	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 重症患者初期支援充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ ウイルス疾患指導料	・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・ 遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・ 角結膜悪性腫瘍切除手術
・ 高度難聴指導管理料	・ 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は带状角膜変性に係るものに限る。))
・ 糖尿病合併症管理料	・ 角膜移植術(内皮移植加算)
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 羊膜移植術
・ がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ	・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・ 外来緩和ケア管理料	・ 緑内障手術(流出路再建術(眼内法))及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ 緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ 網膜再建術
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・ 一般不妊治療管理料	・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・ 生殖補助医療管理料1	・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 二次性骨折予防継続管理料1・3	・ 内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・ 下肢創傷処置管理料	・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・ 慢性腎臓病透析予防指導管理料	・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・ 腎代替療法指導管理料	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・ 院内トリアージ実施料	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・ 救急搬送看護体制加算1	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))

・ 外来放射線照射診療料	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 外来腫瘍化学療法診療料1	・ 乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・ 連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)	・ 気管支バルブ留置術
・ がん薬物療法体制充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)	・ 胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ ニコチン依存症管理料	・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 療養・就労両立支援指導料(相談支援加算)	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ がん治療連携計画策定料	・ 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 外来排尿自立指導料	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・ ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・ こころの連携指導料(Ⅱ)	・ 肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・ プログラム医療機器等指導管理料	・ 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 薬剤管理指導料	・ 内視鏡下筋層切開術
・ 医療機器安全管理料1	・ 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・ 医療機器安全管理料2	・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
・ 精神科退院時共同指導料1	・ 胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 精神科退院時共同指導料2	・ 経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)
・ 歯科治療時総合医療管理料	・ 経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)
・ 禁煙治療補助システム指導管理加算	・ 経皮的僧帽弁クリップ術
・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)	・ 胸腔鏡下心房中隔欠損閉鎖術
・ 遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)	・ 不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)に限る。)
・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・ 不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)
・ 在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	・ 経皮的中等心筋焼灼術
・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ 遺伝学的検査	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・ 染色体検査の注2に規定する施設基準	・ 両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)

・ 骨髓微小残存病変量測定	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極拔去術
・ BRCA1/2遺伝子検査	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・ がんゲノムプロファイリング検査	・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・ 先天性代謝異常症検査	・ 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・ 抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・ 補助人工心臓
・ 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・ 経皮的下肢動脈形成術
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-Cov-2核酸検出を含まないもの)	・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・ 骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・ 検体検査管理加算(Ⅰ)	・ 内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・ 検体検査管理加算(Ⅳ)	・ 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・ 国際標準検査管理加算	・ 腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ 腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ バルーン閉塞下逆行性静脈的塞栓術
・ 胎児心エコー法	・ 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・ ヘッドアップティルト試験	・ 胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ 長期継続頭蓋内脳波検査	・ 体外衝撃波胆石破碎術
・ 単線維筋電図	・ 腹腔鏡下肝切除術
・ 光トポグラフィー	・ 腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 脳波検査判断料1	・ 移植用部分肝採取術(生体)(腹腔鏡によるもの)
・ 神経学的検査	・ 生体部分肝移植術
・ 補聴器適合検査	・ 同種死体肝移植術
・ 全視野精密網膜電図	・ 体外衝撃波膵石破碎術
・ ロービジョン検査判断料	・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ コンタクトレンズ検査料1	・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 小児食物アレルギー負荷検査	・ 腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 内服・点滴誘発試験	・ 腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・ 経頸静脈的肝生検	・ 腹腔鏡下膵中央切除術
・ 経気管支凍結生検法	・ 生体部分小腸移植術

・ 有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	・ 同種死体小腸移植術
・ 有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 精密触覚機能検査	・ 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 画像診断管理加算1	・ 内視鏡的小腸ポリープ切除術
・ 画像診断管理加算4	・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 遠隔画像診断	・ 腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・ 副腎腫瘍ラジオ波焼灼療法
・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・ 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・ 冠動脈CT撮影加算	・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 血流予備量比コンピューター断層撮影	・ 腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・ 心臓MRI撮影加算	・ 腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 乳房MRI撮影加算	・ 同種死体腎移植術
・ 頭部MRI撮影加算	・ 生体腎移植術
・ 全身MRI撮影加算	・ 膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・ 肝エラストグラフィ加算	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 外来化学療法加算1	・ 尿道狭窄グラフト再建術
・ 無菌製剤処理料	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 精巣温存手術
・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 精巣内精子採取術
・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ がん患者リハビリテーション料	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ リンパ浮腫複合的治療料	・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術
・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 経頭蓋磁気刺激療法	・ 腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 通院・在宅精神療法(療養生活環境整備指導加算)	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・ 通院・在宅精神療法(療養生活継続支援加算)	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・ 救急患者精神科継続支援料	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 認知療法・認知行動療法1、2	・ 腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術

・ 精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)	・ 胎児輸血術
・ 医療保護入院等診療料	・ 体外式膜型人工肺管理料
・ 処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	・ 手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
・ 静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術) ・ (遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器摘出術)
・ 多血小板血漿処置	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・ 人工腎臓	・ 輸血管理料Ⅰ
・ 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・ 輸血適正使用加算
・ 導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・ コーディネート体制充実加算
・ 下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・ 同種クリオプレシピテート作製術
・ 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ ストーマ合併症加算	・ 歯周組織再生誘導手術
・ 歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 手術用顕微鏡加算	・ 歯根端切除手術の注3
・ 歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・ レーザー機器加算
・ 歯科技工士連携加算2	・ 麻酔管理料(Ⅰ)
・ 光学印象	・ 麻酔管理料(Ⅱ)
・ CAD/CAM冠	・ 周術期薬剤管理加算
・ 歯科技工加算	・ 放射線治療専任加算
・ 皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・ 外来放射線治療加算
・ 皮膚移植術(死体)	・ 高エネルギー放射線治療
・ 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ 1回線量増加加算
・ 処理骨再建加算	・ 強度変調放射線治療(IMRT)
・ 緊急整復固定加算及び緊急挿入加算	・ 画像誘導放射線治療(IGRT)
・ 骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ 定位放射線治療
・ 後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 椎間板内酵素注入療法	・ 画像誘導密封小線源治療加算
・ 腫瘍脊椎骨全摘術	・ 保険医療機関間の連携による病理診断
・ 緊急穿頭血腫除去術	・ 病理診断管理加算2

・ 脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
・ 原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・ 口腔病理診断管理加算2
・ 内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・ 看護職員処遇改善評価料
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳 ・ 刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装 置交換術	・ 外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・ 脊髄性刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・ 癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・ 入院ベースアップ評価料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・染色体検査(流産検体を用いた絨毛染色体検査を行う場合)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	10回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	37
	剖検率(%)	10.2

(注) 1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。
(注) 2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
小児・AYA世代肝腫瘍の治癒率向上と合併症低減を目指した3Dシミュレーションによる外科療法最適化:成人小児多施設共同研究	阿部 雄太	外科学(一般・消化器)	390,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
未治療末梢性T細胞リンパ腫に対する初回導入化学療法後の完全奏効例に対する自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法のランダム化第III相試験(JCOG2210)	片岡 圭亮	内科学(血液)	0	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
RNA標的創薬技術開発／新規RNA標的医薬品の研究開発(新規修飾siRNAと核酸デリバリーの最適化による難治性卵巣がん治療に関する研究開発)	谷口 博昭	腫瘍センター	35,880,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
腸内マイクロバイーム制御による次世代創薬技術の開発／課題2:有益細菌探索に基づく合理的に設計された新規MB制御医薬品の創出	本田 賢也	微生物学・免疫学	440,000,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
国際競争力のある次世代抗体医薬品製造技術開発/次世代抗体医薬品の製造基盤技術開発 (次世代抗体医薬品の開発を加速するRI標識に関する基盤技術開発とRI標識抗体医薬の実用化研究-1)	谷口 博昭	腫瘍センター	6,500,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
RNA標的創薬技術開発／新規RNA標的医薬品の研究開発(疾患の原因となる変異遺伝子のみを正常遺伝子と区別して抑制するSNPD-siRNA核酸医薬品実用化のための非臨床試験基盤の確立)	谷口 博昭	腫瘍センター	5,850,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
臨床エビデンス・宿主疾患感受性遺伝子に立脚した気道微小環境への介入による肺非結核性抗酸菌症の新規治療薬創出	南宮 湖	感染症学	13,000,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
大規模がんゲノム情報に基づく異常スプライシングに対する新たな創薬標的の開発	安田 浩之	内科学(呼吸器)	1,300,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
エピジェネティクス再構成による終末分化・疲弊に耐性を持つCAR-T細胞の開発	籠谷 勇紀	先端研(がん免疫)	29,000,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
細胞運命に着目した薬剤スクリーニングによる骨肉腫治療戦略の開発	中山 タラント ロバート	整形外科科学	1,300,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
膵がん・大腸がんの発症リスク予測血液バイオマーカーの開発	長島 健悟	臨床研究推進センター	650,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
メチオン経路によるSTING/MAVSを介した抗腫瘍免疫制御機構の解明および治療応用	寺井 秀樹	腫瘍センター	1,300,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
再発小児がんの多様性に立脚した新規克服法の開発	大喜多 肇	病理診断部	910,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
肺がんにおけるRNA多様性とゲノム異常の統合解析に基づく新規治療法の開発	額賀 重成	内科学(呼吸器)	1,300,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
皮質下嚢胞をもつ大頭型白質脳症に対する遺伝子治療開発	田中 謙二	先端研(脳科学)	78,000,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
中枢神経系に対する再生医療の普及に資する細胞製剤作製技術の確立	神山 淳	生理学	78,000,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
先天性食道閉鎖症および先天性食道狭窄症の術後吻合部狭窄への自己上皮細胞シートによる小児再生治療の研究	藤野 明浩	外科学(小児)	2,600,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
特発性大腿骨頭壊死症に対する自家濃縮骨髄液移植法の臨床研究	藤江 厚廣	整形外科科学	10,288,200	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
ダイレクトリプログラミングによる革新的心臓再生遺伝子治療の開発	家田 真樹	内科学(循環器)	65,000,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
ニューロリハビリテーション療法を併用した慢性期脊髄損傷に対する細胞移植治療の開発	中村 雅也	整形外科科学	146,471,013	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
新規抗体医薬の設計およびCAR-T細胞療法との融合による革新的がん免疫療法の研究開発	伊藤 雄介	先端研(がん免疫)	16,900,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
転写機構改変による自己複製能を持つCAR-NK細胞の開発	籠谷 勇紀	先端研(がん免疫)	32,500,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
小腸オルガノイドを用いた再生医療へ向けた基盤的研究	杉本 真也	内科学(消化器)	16,900,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
患者iPS細胞由来視床下部-下垂体オルガノイドを用いたPrader-Willi症候群の病態解明およびエピゲノム編集を用いた治療戦略の構築	田村 亮太	脳神経外科学	3,900,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
運動ニューロン疾患におけるシナプスを介した神経変性機構の解明	宮 冬樹	臨床遺伝学センター	1,300,000	補委○ (国研)日本医療研究開発機構 (AMED)

食道癌術後患者を対象とした外来がんリハビリテーションプログラムの開発に関する研究	辻 哲也	リハビリテーション医学	16,640,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
肺癌オルガノイドライブラリーを用いた肺癌フェノタイプ多様性を規定する分子基盤解明と新規治療標的の同定	安田 浩之	内科学(呼吸器)	22,724,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
早期胃癌に対するセンチネルリンパ節生検を用いた個別化、縮小手術の安全性と有効性を検証することを目的とした検証的多施設共同第3相試験	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	3,900,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
ゲノム編集iPS細胞由来神経幹細胞を用いた悪性神経腫に対する遺伝子幹細胞療法の実用化開発	戸田 正博	脳神経外科学	147,790,500	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
HER2陽性の進行期乳房外パジェット病に対するトラスツズマブ エムタンシン治療の第II相臨床試験	舩越 建	皮膚科学	50,707,800	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
術前化学療法後に手術が施行された局所進行食道がんに対する、最適な術後治療の開発を目指す研究: JCOG2206 (SUNRISE Trial)	松田 諭	外科学(一般・消化器)	19,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
微小な胸膜播種を有する臨床病期IVA期非小細胞肺癌に対する原発巣切除追加の治療的意義を検証するランダム化比較第III相試験	菱田 智之	外科学(呼吸器)	19,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
SCRUM-Japan MONSTAR-SCREENプロジェクト基盤を活用した血液循環腫瘍DNAゲノムスクリーニングに基づく相同組換え遺伝子変異を有する固形がんに対する医師主導治験	田中 伸之	泌尿器科学	0	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対して、骨盤リンパ節郭清のみに比べて骨盤リンパ節に傍大動脈リンパ節郭清を加えることの優越性を検証する多施設共同臨床試験	山上 亘	産婦人科学(婦人科)	107,250	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	中山 タラント ロバート	整形外科	390,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
進行直腸癌に対する導入/強化化学療法を併用した化学放射線療法後の待機療法に関する多施設ランダム化第II相試験	茂田 浩平	外科学(一般・消化器)	390,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究	菱田 智之	外科学(呼吸器)	1,839,500	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究	西尾 浩	産婦人科学(婦人科)	26,000,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
臨床病期I/II期非小細胞肺癌におけるリンパ節郭清の縮小化の治療的意義を検証するランダム化比較試験	菱田 智之	外科学(呼吸器)	260,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
がん遺伝的素因を有する小児・AYA世代の先制医療体制構築を目指したLi-Fraumeni症候群におけるがんサーベイランスの実用化のためのイメージング方法および新規バイオマーカーの開発に関する研究	山崎 文登	小児科学	0	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
切除不能な肝門部領域胆管癌に対する生体肝移植	阿部 雄太	外科学(一般・消化器)	0	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
肺がん等の全ゲノム配列データおよび臨床情報等の収集と解析に基づく創薬等のイノベーションの創出のための基盤研究	安田 浩之	内科学(呼吸器)	260,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
卵巣がんに対するゲノム医療の実装と新規治療戦略構築のための全ゲノムおよびオミックス解析研究	山上 亘	産婦人科学(婦人科)	650,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
小児がんの全ゲノム解析等のデータ基盤の充実と診療応用に資する成果の創出	大喜多 肇	病理診断部	260,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
全ゲノム情報等の高精度かつ迅速な患者還元および新たな創薬等の創出を通じた高度化がんプレジジョン医療の実践	西原 広史	がんゲノム医療センター	28,210,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
造血幹細胞移植後の二次性固形癌から得られたゲノム変異による個別化医療の確立と臨床的妥当性の検証	井上 聡	先端研(がん免疫)	1,950,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
卵巣扁平上皮癌に対するベムプロリズマブ療法の有効性および安全性を評価する単群非盲検第II相試験	佐藤 泰憲	生物統計学	520,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
オールジャパン体制による食道がん等消化器難治がんの全ゲノム配列データ及び臨床情報による先端的創薬開発・全ゲノム医療基盤構築	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	0	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
解析・データセンターにおける情報システム基盤の研究と構築	西原 広史	がんゲノム医療センター	0	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
臨床病期I-IVA (T4を除く) 胸部上中部食道扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	1,001,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
高齢者多発性骨髄腫に対する標準治療の確立と治療効果・耐性獲得に関わる分子基盤の探索	片岡 圭亮	内科学(血液)	5,200,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
外分泌機能推定による膵がん悪性化リスク層別化に有用な血液バイオマーカーの臨床開発	長島 健悟	臨床研究推進センター	390,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
国内完結型全エクソーム解析技術による遺伝性腫瘍診断プログラム医療機器の開発	西原 広史	がんゲノム医療センター	1,300,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)

臨床病期I/II/III食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	0	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
全ゲノム情報等の高精度かつ迅速な患者還元および新たな創薬等の創出を通じた高度化がんプレジジョン医療の実践	西原 広史	がんゲノム医療センター	137,410,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
医療情報を統合したうつ病の治療最適化に資するシステムの開発	菊地 俊暁	精神・神経科学	35,100,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
治療抵抗性うつ病に対するシロシピン療法に関する研究開発	内田 裕之	精神・神経科学	9,620,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
視覚障害者における就労支援のニーズ実態調査と日本版リエゾンシステム導入の有効性の検証及び開発	栗原 俊英	眼科学	9,100,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
大規模前向きコホートデータを基盤とした認知症のゲノム・脳画像研究	三村 将	予防医療センター	11,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
認知症疾患コホートを活用したゲノム統合解析による認知症層別化と脳内病態メカニズムの解明	前田 純宏	生理学	3,315,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
一側性聴覚障害の評価手法の標準化と社会参加を促進する手法に関する研究開発	大石 直樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	650,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
マイレジストリの縦断データを活用した新規治療法開発と薬事承認の実現	内田 裕之	精神・神経科学	3,900,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
遺伝子情報に基づくトランスサイレチンアミロイドーシスの病態解明および個別化医療の実現を目的としたエビデンス創出研究	遠藤 仁	内科学(循環器)	5,200,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
潰瘍性大腸炎新規治療薬『インジゴ潰瘍性大腸炎カプセル(IndUC)』の治験開始に向けた開発研究	金井 隆典	内科学(消化器)	77,999,999	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
皮膚微生物叢と宿主の双方向理解に基づくアトピー性皮膚炎の新規治療の創出	天谷 雅行	皮膚科学	19,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
血管内皮細胞の多様性や相互作用の解析による心血管疾患の治療法開発	楠本 大	予防医療センター	9,750,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
ボドサイトDNA損傷に起因する病源性メモリーT細胞を標的にした治療法開発	林 香	内科学(腎・内・代)	10,400,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
アトピー性皮膚炎をモデルとした次世代リバーstransレーショナル研究基盤構築に向けた研究	足立 剛也	皮膚科学	13,000,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
日本人SNPを利用したドナー由来Cell free DNA測定(リキッドバイオプシー)による臓器移植後グラフト障害診断法の確立	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	13,910,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
心血管疾患に対する、運動支援プログラムに関する研究開発	勝俣 良紀	スポーツ医学総合センター	36,400,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
構造異常・スプライシング異常・メチル化異常の革新的検出系による未診断疾患患者の診断率向上とN-of-1創薬への導出	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	91,000,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
重症喘息及び難治性好酸球性副鼻腔炎における2型自然リンパ球の分子細胞学的解析と新規治療ターゲットの創出	加畑 宏樹	内科学(呼吸器)	9,750,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
miRNA 網羅的解析により得られた神経障害性疼痛バイオマーカーの有用性に関する研究開発	中村 雅也	整形外科	6,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
原発性硬化性胆管炎の病態関連腸内細菌を標的とした治療応用	中本 伸宏	内科学(消化器)	19,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
B細胞分化抑制作用を有する低分子化合物を用いた難治性自己免疫疾患の革新的経口治療薬の開発	金子 祐子	内科学(リウマチ・膠原病)	32,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
機能的に安定な自己誘導型制御性T細胞による尋常性天疱瘡に対する細胞療法の開発	天谷 雅行	皮膚科学	78,000,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
遺伝性疾患・神経線維腫症2型に対する革新的治療法(新規免疫療法)の開発	戸田 正博	脳神経外科学	123,220,792	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
先天性リポイド副腎過形成症の診療ガイドライン作成に向けた患者レジストリ構築とリアルワールドエビデンス創出研究	石井 智弘	小児科学	13,000,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
Podoplaninを標的としたヒトリンパ管腫(リンパ管奇形)に対する光免疫療法の開発	藤野 明浩	外科学(小児)	23,400,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
オステオポンチン産生マクロファージによる多臓器横断的恒常性破綻と生活習慣病重症化機序の解明	白川 公亮	内科学(循環器)	6,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究	住友 直文	小児科学	273,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
統合レジストリを活用したキャッスルマン病・TAFRO症候群における精密医療基盤の構築を目指す実用化研究	甲田 祐也	内科学(血液)	520,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
真菌関連アレルギー性気道疾患における真菌生態・宿主応答機序の解明と発症・増悪・重症化予防法の開発	宮田 純	内科学(呼吸器)	650,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)

特殊環状ペプチドを用いたアトピー性皮膚炎に対する分子標的薬の開発	足立 剛也	皮膚科学	650,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
21水酸化酵素欠損症の新たな小児期先制医療を目指した患者レジストリ構築、治療マーカーおよび簡便な遺伝学的検査法の確立	長谷川 奉延	医学部	780,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
先天性および若年発症の視覚聴覚二重障害の難病に対する診療エビデンスの創出	宮 冬樹	臨床遺伝学センター	520,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
希少難病に対するN-of-1核酸医薬創薬研究	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	2,600,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	6,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
早期関節リウマチの滑膜と末梢血情報による予後予測モデルの構築	竹下 勝	内科学(リウマチ・膠原病)	130,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
アレルギー関連パスウェイの遺伝子解析を通じた重症アレルギー疾患の病態解明	足立 剛也	皮膚科学	650,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
抗インターフェロンガンマ自己抗体がもたらす成人発症免疫不全症における基盤情報の整備と疾患レジストリの構築	南宮 湖	感染症学	1,300,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
アレルギー病態の多様性の解明と持続可能なデータ駆動型精密医療の実現を目指した、アトピー性皮膚炎を対象とする異分野融合研究	天谷 雅行	皮膚科学	6,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
全身型若年性特発性関節炎に対する診断率向上および治療効果、予後予測指標の確立を目指したエビデンス創出研究	金子 祐子	内科学(リウマチ・膠原病)	650,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
性分化疾患・性成熟疾患の治療成績向上に向けたエビデンス創出	長谷川 奉延	医学部	1,300,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	0	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
ボドサイトDNA損傷に起因する病原性メモリーT細胞を標的にした治療法開発	林 香	内科学(腎・内・代)	6,903,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	宇野 俊介	感染症学	585,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
非結核性抗酸菌症のサーベイランス、ゲノム情報を基盤とする病態形成機序、薬剤耐性機構、検査・診断法の確立及び新規治療薬等の開発に資する研究	長谷川 直樹	感染症学	4,550,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
非結核性抗酸菌症のサーベイランス、ゲノム情報を基盤とする病態形成機序、薬剤耐性機構、検査・診断法の確立及び新規治療薬等の開発に資する研究	長谷川 直樹	感染症学	39,000,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
新型インフルエンザ感染症に対するPoint of Care Testing型免疫動向把握・予測ツールに関する研究開発	上養 義典	臨床検査医学	8,450,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
コホート研究と臨床検体解析に基づいたCOVID-19罹患後症状治療戦略の創出に向けた多角的アプローチ	福永 興吉	内科学(呼吸器)	7,800,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
肝硬変症に対するリハビリテーション医療の確立、筋肉再生—肝臓修復機構の解析を通じた新たなバイオマーカーの探索	辻 哲也	リハビリテーション医学	3,250,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
思春期女性へのHPV ワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18 陽性割合の推移に関する疫学研究	岩田 卓	産婦人科学(婦人科)	260,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
MASLD/MASH肝がんの治療開発を目指すリビド・ゲノミクス研究3.0	中本 伸宏	内科学(消化器)	2,600,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
MASLD/MASH肝がんの治療開発を目指すリビド・ゲノミクス研究3.0	金井 弥栄	病理学	2,600,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
疾患特異的read-through分子CiDREに基づくlong COVIDの分子メカニズム解明およびバイオマーカー開発	南宮 湖	感染症学	5,200,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
代謝関連脂肪性肝疾患および肝がんの病態解明に関する研究	紅林 泰	病理学	2,600,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
呼吸によるNASH早期スクリーニング技術	勝俣 良紀	スポーツ医学総合センター	3,900,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
重症新生児に対する迅速なゲノム診断の医療実装に関する研究開発	武内 俊樹	小児科学	26,000,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
新生児・乳幼児の視覚聴覚二重障害に対する遺伝学的スクリーニングの研究開発	宮 冬樹	臨床遺伝学センター	390,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
性差を考慮した心不全の発症機序の解明および予防戦略の開発	白石 泰之	内科学(循環器)	260,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
自律神経左右非対称が創造する脳腸関連の統合的理解と電気刺激療法研究開発	金井 隆典	内科学(消化器)	63,440,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)

皮膚の湿度受容体を介した全身の湿度ストレスセンシング制御機構の解明	竹馬 真理子	薬理学	12,862,791	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
非視覚型光受容体による光マルチセンシング機構の解明と光新規治療法開発	栗原 俊英	眼科学	78,140,953	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
時空間マルチサンプリング検体の単一細胞解析によるヒト免疫療法の基盤となる免疫記憶の解明	片岡 圭亮	内科学(血液)	77,350,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
脳腸相関ネットワークの統合的理解による炎症性腸疾患病態の新規治療法に関する研究開発	寺谷 俊昭	先進炎症性腸疾患治療開発教育寄付研究講座	18,772,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
腎臓DNA損傷を起点としたクローン性造血がもたらす老化メカニズムの解明	林 香	内科学(腎・内・代)	5,200,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
バイオヒステリシスを考慮した難治性感染症の治療抵抗性要因の解明と普遍的効果を示す次世代型抗菌薬創薬への応用	南宮 湖	感染症学	18,980,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
貫通検知・自動停止機能を有するハプティック骨ドリルシステムの開発	中村 雅也	整形外科学	7,800,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
革新的免疫学的技術を融合した乳幼児食物アレルギーの発症・診断・免疫療法適応・予後を予測するAI医療機器開発	桜田 一洋	石井・石橋記念講座(拡張知能医学)	5,603,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
センシングによる高齢者のアセスメント及びそのデータを活用した状態像の維持・改善を目指した研究開発	宮田 裕章	医療政策・管理学	5,148,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
腎損傷に対する生体ハイドロゲル充填材の開発と探索的医師主導治験	八木 洋	外科学(一般・消化器)	50,003,200	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
アフリカの地方部・農村部における、予防可能・治療可能な眼底疾患の根絶を実現する眼科医療機器の開発	平山 雅敏	眼科学	1,300,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
心房中隔欠損症を心電図・胸部X線から検出する人工知能の開発および社会実装ー小児を含めた超早期検出への挑戦ー	勝俣 良紀	スポーツ医学総合センター	3,900,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
日・リトアニアにおける遺伝性乳癌の遺伝学的特徴の比較検討及び乳房MRIによる早期乳癌の検出能に関する研究	林田 哲	外科学(一般・消化器)	130,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
パイオバンクの利活用促進に向けた高品質な管理・運営体制の構築	西原 広史	がんゲノム医療センター	1,560,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
KIT遺伝子変異のある進行期悪性黒色腫に対するKIT阻害薬、抗PD-1抗体併用療法の第I/II相臨床試験	舩越 建	皮膚科学	22,230,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
ダロルタミド単剤またはLH-RH製剤との併用による進行期乳房外パジェット病に対する内分泌療法第Ⅱ相臨床試験	中村 善雄	皮膚科学	78,330,395	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	山上 亘	産婦人科学(婦人科)	1,690,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
産医連携拠点による新たな認知症の創薬標的創出	中原 仁	内科学(神経)	191,415,859	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
将来の認知機能予測に基づくテラーメイド行動変容プログラム開発	三村 将	予防医療センター	39,000,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
実態/ニーズ調査に基づいたヘルスケアサービス利用者・事業者も使用可能な認知症発症リスクおよび認知障害・生活機能障害・BPSD等の低減のための非薬物療法指針作成と普及のための研究	文 鐘玉	精神・神経科学	1,950,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
デジタル技術を活用した生涯にわたる血圧管理に関する指針の研究開発	伊藤 裕	予防医療センター	455,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
生活習慣病予防のための行動変容を評価する包括的な社会心理行動指標に関する研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	2,600,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
システマティックレビュー	飯田 美穂	衛生学公衆衛生学	150,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
働く女性の健康づくりに資するヘルスケアサービスと社会実装～多面的価値評価に関する研究～	立森 久照	医療政策・管理学	1,950,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
循環器疾患におけるヘルスケアサービスの有効性に関するエビデンスの整理と指針作成	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	325,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
脂肪肝関連疾患にともなう動脈硬化性心血管疾患の二次・三次予防に資するヘルスケアサービスの指針策定およびシステム開発に関する研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	1,040,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
MRI画像によるアルツハイマー病コンピュータ支援診断プログラムの開発	文 鐘玉	精神・神経科学	19,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
既存大規模コホートを用いたラジオゲノミクスによるLong COVID/COVID-19の創薬ターゲット創出	南宮 湖	感染症学	49,823,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)
ゲノム医療実現推進のためのパイオバンク・ネットワーク構築とパイオバンク利活用促進に関する研究開発	西原 広史	がんゲノム医療センター	3,900,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構 (AMED)

免疫担当細胞eQTLデータを用いた免疫介在性疾患ゲノム情報からの層別化および予後予測モデルの構築	竹下 勝	内科学(リウマチ・膠原病)	260,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
バイオバンクを活用したT細胞受容体配列情報に基づく関節リウマチの新規診断マーカーの同定	河野 通大	微生物学・免疫学	13,000,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
リストバンド型ウェアラブルデバイスデータを用いてうつ病スクリーニングおよび重症度評価を可能とするソフトウェア医療機器の開発	岸本 泰士郎	ヒルズ未来予防医療ウェルネス共同研究講座	37,523,500	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
フィリピンにおける抗酸菌症疫学的実態の解明と国際共同研究を通じたグローバルフィジシャンサイエンティストの育成基盤構築	南宮 湖	感染症学	19,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
日本ブレインバンクネット(JBBN)による精神・神経疾患死後脳リソース基盤の強化に関する研究開発	三村 将	予防医療センター	2,990,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
末梢気道病変に着目した肺NTM症の新たな治療標的の創出	長谷川 直樹	感染症学	7,150,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
数理と臨床の共創による精神疾患サブタイプのヒト病態メカニズム解明	中島 振一郎	精神・神経科学	9,100,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
タウ・ネットワークマッピングとサル遺伝学的回路操作の融合による症状発現回路の特定と介入法の開発	中島 振一郎	精神・神経科学	6,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
健康寿命伸長にむけた腸内細菌動作原理の理解とその応用	本田 賢也	微生物学・免疫学	181,265,500	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
慢性炎症の制御によるがん発症ゼロ社会の実現	籠谷 勇紀	先端研(がん免疫)	13,000,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
ピロリ菌関連胃発がんを制御する食習慣と胃内環境の特定に向けた国際臨床研究	森 英毅	内科学(消化器)	0	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
統合失調症主要バイオタイプの分子シナプス細胞基盤の探索	田中 謙二	先端研(脳科学)	16,255,980	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases(IRUD)): 希少・未診断疾患に対する診断プログラム基盤の開発と患者還元を推進する研究	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	203,125,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
腫瘍の脆弱性に基づいた新規治療標的の網羅的探索	佐藤 俊朗	医化学	5,200,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
頭頸部傍神経節腫の臨床遺伝学的レジストリ構築と至適治療開発	小澤 宏之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	13,000,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
中枢神経系再発高リスクの未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する中枢神経系再発予防を組み入れた治療法のランダム化第III相試験	片岡 圭亮	内科学(血液)	1,300,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
高齢卵巣がん患者に最適な治療選択を行うための開発研究	西尾 浩	産婦人科学(婦人科)	390,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
難治性食道がんの治療前生検を用いたサブタイプ分類に基づくPrecision Medicineに資する体外診断薬の開発	長島 健悟	臨床研究推進センター	2,600,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
造血器腫瘍臨床におけるクリニカルWGSのfeasibilityと有用性の検討	片岡 圭亮	内科学(血液)	520,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	6,994,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
コロナ制圧タスクフォース連携によるワクチン応答性解析	福永 興竜	内科学(呼吸器)	103,090,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
集団・個体・一細胞解像度オミクス解析による免疫記憶の「導入・蓄積・消失」ダイナミクス解明	南宮 湖	感染症学	7,800,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
健康寿命の個体差・性差の分子基盤の理解と予測技術の創出	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	6,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
MRI画像によるアルツハイマー病コンピュータ支援診断プログラムの開発	文 鐘玉	精神・神経科学	19,500,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
リン酸化プルランバイオアドヒーズィブを用いた革新的唇顎口蓋裂治療法の開発	坂本 好昭	形成外科学	130,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
ICD-11伝統医学の病態－モジュールIの活用と、安全で有効な漢方治療実践のための基盤整備研究	吉野 鉄大	全人的漢方診断共同研究講座	884,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
認知症克服に向けた脳のレジリエンスを支えるリザーバー機能とその増強法の開発研究	柚崎 通介	生理学	15,600,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
医療側と企業側双方を対象とした双方向的開発人材育成拠点の整備	加藤 元彦	内視鏡センター	253,500	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
患者との双方向的協調に基づく先天異常症候群の自然歴の収集とrecontact可能なシステムの構築	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	36,920,000	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築における情報通信機器を用いた精神療法の活用に向けた研究	岸本 泰士郎	ヒルズ未来予防医療ウェルネス共同研究講座	9,660,000	補○ 委	厚生労働省
効果的かつ有効性の高い集団精神療法の施行と普及および効果検証のための研究	藤澤 大介	医学部	9,665,000	補○ 委	厚生労働省
特定健康診査における問診・検査項目の必要性・妥当性の検証、及び新たな項目の検討のための研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	10,000,000	補○ 委	厚生労働省
子宮頸がん検診におけるHPV検査導入に向けた実際の運用と課題の検討のための研究	青木 大輔	産婦人科学	10,400,000	補○ 委	厚生労働省
がんのリハビリテーション、およびリンパ浮腫診療の一層の推進に資する研究	辻 哲也	リハビリテーション医学	10,781,000	補○ 委	厚生労働省
学校・保育所等におけるアレルギー疾患を有するこどもの安心・安全・生き生きとした活動を保証する生活管理指導表の運用・管理体制向上をめざす研究	福永 興壺	内科学(呼吸器)	1,170,000	補○ 委	厚生労働省
外国人患者の効果的な受入環境整備に向けた研究	北川 雄光	外科学(一般・消化器)	10,400,000	補○ 委	厚生労働省
認定臨床研究審査委員会の審査の質の定期評価のための評価手法およびその実施方法に関するマニュアル策定に向けた研究	神山 圭介	臨床研究監理センター	4,608,000	補○ 委	厚生労働省
新型コロナウイルス感染症による医学・医療・健康に与えた全般的影響の総括研究—今後の医療保険制度構築の観点から—	福永 興壺	内科学(呼吸器)	2,600,000	補○ 委	厚生労働省
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	松本 守雄	整形外科科学	250,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	中原 仁	内科学(神経)	800,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	佐藤 泰憲	生物統計学	400,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	中原 仁	内科学(神経)	400,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	岩崎 栄典	内科学(消化器)	500,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	秋山 光浩	内科学(リウマチ・膠原病)	500,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
自己免疫疾患に関する調査研究	花岡 洋成	内科学(リウマチ・膠原病)	200,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
自己免疫疾患に関する調査研究	金子 祐子	内科学(リウマチ・膠原病)	200,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
自己免疫疾患に関する調査研究	内野 裕一	眼科学	200,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
パーチェット病に関する調査研究	筋野 智久	内視鏡センター	200,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
キャッスルマン病、TAFRO症候群、類縁疾患の診療ガイドラインの策定や更なる改良に向けた 国際的な総意形成を踏まえた調査研究	金子 祐子	内科学(リウマチ・膠原病)	150,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築	浅沼 宏	泌尿器科学	200,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築	藤野 明浩	外科学(小児)	500,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
ライソゾーム病、ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを含む)における早期診断・早期治療を可能とする診療提供体制の確立に関する研究	山川 裕之	予防医療センター	240,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
アミロイドーシスに関する調査研究	遠藤 仁	内科学(循環器)	600,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	高橋 勇人	皮膚科学	1,000,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	高橋 勇人	皮膚科学	500,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
成長障害・性分化疾患を伴う内分泌症候群(ブラダーウィリ症候群・スーナン症候群を含む)の診療水準向上を目指す調査研究	石井 智弘	小児科学	300,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	長谷川 奉延	医学部	400,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	栗原 勲	内科学(腎・内・代)	400,000	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)

副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	石井 智弘	小児科学	200,000	補○ 委	国立保健医療 科学院(厚生労 働省)
前眼部難病の診療ガイドライン作成および普及・啓発の研究	平山 雅敏	眼科学	500,000	補○ 委	国立保健医療 科学院(厚生労 働省)
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	中村 雅也	整形外科学	250,000	補○ 委	国立保健医療 科学院(厚生労 働省)
難治性聴覚障害に関する調査研究	大石 直樹	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学	300,000	補○ 委	国立保健医療 科学院(厚生労 働省)
呼吸器系先天異常疾患の医療水準向上と移行期医療に関する研究	佐藤 泰憲	生物統計学	300,000	補○ 委	国立保健医療 科学院(厚生労 働省)
呼吸器系先天異常疾患の医療水準向上と移行期医療に関する研究	渡邊 航太	整形外科学	600,000	補○ 委	国立保健医療 科学院(厚生労 働省)
呼吸器系先天異常疾患の医療水準向上と移行期医療に関する研究	藤野 明浩	外科学(小児)	600,000	補○ 委	国立保健医療 科学院(厚生労 働省)
難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形(リンパ管腫)・リン パ管腫症および関連疾患についての調査研究	野崎 太希	放射線科学(診断)	300,000	補○ 委	国立保健医療 科学院(厚生労 働省)
難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形(リンパ管腫)・リン パ管腫症および関連疾患についての調査研究	藤野 明浩	外科学(小児)	300,000	補○ 委	国立保健医療 科学院(厚生労 働省)
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支 援に関する研究	大石 直樹	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学	70,000	補○ 委	国立保健医療 科学院(厚生労 働省)
健康無関心層のセグメント化と効果的介入手法の検討:ライフステー ジに着目して	鈴木 有佳	医療政策・管理学	300,000	補○ 委	厚生労働省
次期健康づくり運動プラン作成と推進に向けた研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	1,200,000	補○ 委	厚生労働省
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療 データベースの活用による医療向上を目指す研究	小杉 志都子	麻酔学	200,000	補○ 委	厚生労働省
人工内耳装用児の言語能力向上のための効果的な療育方法の確立 に向けた研究	大石 直樹	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学	600,000	補○ 委	厚生労働省
安全な血液製剤の安定供給に資する適切な採血事業体制の構築の ための研究	田野崎 隆二	輸血・細胞療法セン ター	920,000	補○ 委	厚生労働省
職域における科学的根拠に基づくがん検診の社会実装に関する研究	青木 大輔	産婦人科学	500,000	補○ 委	厚生労働省
循環器疾患及び糖尿病、COPD等の生活習慣病の個人リスク及び集 団リスクの評価ツールの開発と応用のための研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	650,000	補○ 委	厚生労働省
健康寿命延伸に備えた女性の心身の健康支援のための普及啓発に 向けた研究	長島 健悟	臨床研究推進セン ター	110,000	補○ 委	厚生労働省
スモンに関する調査研究	川上 途行	リハビリテーション医 学	700,000	補○ 委	厚生労働省
医療機関における心理検査の実施実態と活用可能性に関する研究	満田 大	精神・神経科学	2,480,000	補○ 委	厚生労働省
世界精神保健調査に資する大規模疫学調査による精神疾患の有病 率等を把握するための研究	立森 久照	医療政策・管理学	1,500,000	補○ 委	厚生労働省
肝がん・重度肝硬変の医療水準と患者のQOL向上等に資する研究	立森 久照	医療政策・管理学	1,500,000	補○ 委	厚生労働省
温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資す る研究	眞喜志 まり	衛生学公衆衛生学	140,000	補○ 委	厚生労働省
健診受診後の実態調査に準拠した健診受診後の早期介入のための 研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	100,000	補○ 委	厚生労働省
生活習慣の行動変容を促す効果的な保健指導のエビデンス創出に 資する研究	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	1,000,000	補○ 委	厚生労働省
国民健康・栄養調査対象集団の新旧コホート研究による健康日本21 (第三次)推進のエビデンス構築:NIPPON DATA80/90/2010	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	200,000	補○ 委	厚生労働省
痛覚変調性疼痛を有する慢性疼痛患者の心理社会的背景の分析と 社会復帰・居場所づくりを推進する研究	小杉 志都子	麻酔学	400,000	補○ 委	厚生労働省
梅毒の診療と予防の実践に関する研究	新庄 正宜	小児科学	1,000,000	補○ 委	厚生労働省
血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する外科治療の標準化 に関する研究	長谷川 康	外科学(一般・消化器)	100,000	補○ 委	厚生労働省
令和時代の自然災害と健康危機管理:WHOの研究手法ガイダンスを 見据えた研究推進	野村 周平	グローバルリサーチイ ンスティテュート(信	200,000	補○ 委	厚生労働省

食事摂取基準の策定を見据えた栄養学の進展に資する研究	春日 義史	産婦人科学(産科)	500,000	補○ 委	厚生労働省
強直性脊椎炎に代表される脊椎関節炎及び類縁疾患の医療水準ならびに患者QOL向上に資する大規模多施設研究	金子 祐子	内科学(リウマチ・膠原病)	0	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
骨髄バンクドナーの提供体制強化と若年ドナーの確保・リテンションへ向けた適切な介入方法の確立のための研究	岡本 真一郎	医学部	0	補○ 委	厚生労働省
強直性脊椎炎に代表される脊椎関節炎及び類縁疾患の医療水準ならびに患者QOL向上に資する大規模多施設研究	野崎 太希	放射線科学(診断)	0	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
痛覚変調性疼痛を有する慢性疼痛患者の心理社会的背景の分析と社会復帰・居場所づくりを推進する研究	舟久保 恵美	内科学(神経)	0	補○ 委	厚生労働省
小児がんの統合病理診断体制に関する研究	大喜多 肇	病理診断部	0	補○ 委	厚生労働省
循環器病対策の進捗評価法の確立を目指した研究	香坂 俊	内科学(循環器)	0	補○ 委	厚生労働省
再発性多発軟骨炎の診断と治療体系の確立	花岡 洋成	内科学(リウマチ・膠原病)	0	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	金井 隆典	内科学(消化器)	0	補○ 委	国立保健医療科学院(厚生労働省)
学校・保育所等におけるアレルギー疾患を有するこどもの安心・安全・生き生きとした活動を保証する生活管理指導表の運用・管理体制向上をめざす研究	正木 克宜	内科学(呼吸器)	0	補○ 委	厚生労働省
学校・保育所等におけるアレルギー疾患を有するこどもの安心・安全・生き生きとした活動を保証する生活管理指導表の運用・管理体制向上をめざす研究	上條 慎太郎	産婦人科学(産科)	0	補○ 委	厚生労働省
免疫アレルギー疾患研究10か年戦略の進捗評価と課題抽出、体制強化に関する研究	天谷 雅行	皮膚科学	0	補○ 委	厚生労働省
免疫アレルギー疾患研究10か年戦略の進捗評価と課題抽出、体制強化に関する研究	足立 剛也	皮膚科学	0	補○ 委	厚生労働省
難病の克服に向けた研究推進と医療向上を図るための戦略的統括研究	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	0	補○ 委	厚生労働省
小児・AYA世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法のエビデンス確立を目指した研究―安全性と有効性の創出を目指して	中山 タラント ロバート	整形外科科学	0	補○ 委	厚生労働省
免疫アレルギー疾患研究10か年戦略の進捗評価と課題抽出、体制強化に関する研究	正木 克宜	内科学(呼吸器)	0	補○ 委	厚生労働省
ICH-GCP改定における日本からのステークホルダー参画のための研究	富永 俊義	臨床研究推進センター	0	補○ 委	厚生労働省
リアルワールドデータを用いた国際標準分類に準拠した医療技術の再分類の取り組みと、再分類の効果予測研究	宮田 裕章	医療政策・管理学	0	補○ 委	厚生労働省
バイオ後続品の有効性・安全性をリアルワールドで体系的に評価するシステムの確立	堀口 逸子	衛生学公衆衛生学	0	補○ 委	厚生労働省
バイオ後続品の有効性・安全性をリアルワールドで体系的に評価するシステムの確立	松元 美奈子	衛生学公衆衛生学	0	補○ 委	厚生労働省
医師臨床研修制度における基本的臨床能力評価試験の活用等に関する研究	藤川 裕恭	総合診療教育センター	0	補○ 委	厚生労働省
ゲノム編集技術等が用いられたヒト胚等の臨床利用の規制の方法の検討のための研究	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	0	補○ 委	厚生労働省
臨床ゲノム情報公開データベース(MGeND)キュレーション業務	小崎 健次郎	臨床遺伝学センター	32,000,000	補○ 委	厚生労働省
令和6年度慢性疼痛診療システム均てん化等事業費補助金	小杉 志都子	麻酔学	18,000,000	補○ 委	厚生労働省
食行動の変容に向けた尿検査及び食環境整備に係る実証事業における、当該実証事業の手法の開発および研究遂行にかかる業務	岡村 智教	衛生学公衆衛生学	150,000	補○ 委	厚生労働省
新型コロナウイルス感染症による医学・医療・健康に与えた全般的影響の総括研究―今後の医療・保健制度構築の観点から―	福永 興壺	内科学(呼吸器)	9,045,788	補○ 委	厚生労働省
全ゲノム解析等実行計画におけるシステム開発に関する業務委託一式	中村 康平	がんゲノム医療センター	4,200,000	補○ 委	厚生労働省
協会けんぽ加入者の高額医療費集団に特徴的な疾患群に対する効率的医療費適正化を目指した多元統括的研究	伊藤 裕	予防医療センター	5,434,000	補○ 委	全国健康保険協会
NCNPブレインバンクの運営およびブレインバンク生前登録システムの推進	三村 将	予防医療センター	700,000	補○ 委	(国研)国立精神・神経医療研究センター

認知行動療法と社会機能改善に関する包括的研究	片山 奈理子	精神・神経科学	500,000	補委○	(国研)国立精神・神経医療研究センター
妊娠成立に不可欠な細菌叢の臨床サンプルを用いた解析	山田 満稔	産婦人科学(産科)	600,000	補委○	(国研)国立成育医療研究センター
妊娠成立に不可欠なD-アミノ酸の臨床サンプルを用いた解析	笹部 潤平	内科学(消化器)	400,000	補委○	(国研)国立成育医療研究センター
FALD(Fontan術後肝臓合併症)の疫学調査・レジストリ拡充と病態解明に基づく診療ガイドライン作成に資する研究	大喜多 肇	病理診断部	1,200,000	補委○	(国研)国立国際医療研究センター
鶴岡メタボロームコホート研究(TMCS)におけるゲノム情報の提供と利活用に関する研究	武林 亨	衛生学公衆衛生学	500,000	補委○	(国研)国立がん研究センター
がん患者の社会経済状況に関する実態調査	吉岡 貴史	衛生学公衆衛生学	300,000	補委○	(国研)国立がん研究センター
コホート研究における精神疾患登録基盤構築	三村 将	予防医療センター	5,000,000	補委○	(国研)国立がん研究センター
食道がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究	松田 諭	外科学(一般・消化器)	500,000	補委○	(国研)国立がん研究センター
世界疾病負荷研究の日本人への適用	野村 周平	グローバルリサーチインスティテュート(信)	250,000	補委○	(国研)国立がん研究センター
呼吸器悪性腫瘍に対する手術を含む標準治療確立のための多施設共同研究	菱田 智之	外科学(呼吸器)	0	補委○	(国研)国立がん研究センター
ソーテックツ(ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社)	武林 亨	衛生学公衆衛生学	109,953	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
パキロビッド(ファイザー株式会社)	武林 亨	衛生学公衆衛生学	222,893	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
ベスレミ(ファーマエッセンシアジャパン株式会社)	武林 亨	衛生学公衆衛生学	10,428,998	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
ゴア CTAG 胸部大動脈ステントグラフトシステム(日本ゴア合同会社)	武林 亨	衛生学公衆衛生学	11,711,894	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
リットフーロ(ファイザー株式会社)	武林 亨	衛生学公衆衛生学	15,248,343	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
フォゼベル(協和キリン株式会社)	武林 亨	衛生学公衆衛生学	24,988,689	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
レクビオ(ノバルティスファーマ株式会社)	武林 亨	衛生学公衆衛生学	24,988,689	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
ウゴービ(ノボ ノルディスク ファーマ株式会社)	武林 亨	衛生学公衆衛生学	14,531,928	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
レプロジル皮下注用(ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社)	武林 亨	衛生学公衆衛生学	24,988,689	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
ピロイ点滴静注用(アステラス製薬株式会社)	武林 亨	衛生学公衆衛生学	24,988,689	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
エルレフィオ皮下注(ファイザー株式会社)	武林 亨	衛生学公衆衛生学	24,988,689	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
ブリビアクト(ユーシービージャパン株式会社)	武林 亨	衛生学公衆衛生学	24,988,689	補委○	国立保健医療科学院(厚生労働省)
基礎・臨床一体型の持続可能な橋渡し研究支援拠点形成	長谷川 奉延	医学部	109,445,300	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
多様な異分野研究の萌芽発掘から革新的医療シーズへの進化を導く持続的開発推進	長谷川 奉延	医学部	49,698,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
慶應義塾スタートアップ推進拠点(Keio Biomedical Accelerator)構築による革新的医療シーズの早期社会実装と、大学発スタートアップ・エコシステムの創成	長谷川 奉延	医学部	377,188,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
iPS細胞由来グリオジェニック神経前駆細胞を用いた慢性期脊髄損傷に対する細胞移植療法の研究開発	名越 慈人	整形外科科学	113,230,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
バイオ3Dプリンター技術を用いた膝関節特発性骨壊死に対する骨軟骨再生治療	小林 秀	整形外科科学	24,747,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
東日本におけるiPS細胞等臨床研究推進モデル病院の充実	中村 雅也	整形外科科学	40,300,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)
世界最先端の革新的医療技術の研究開発を最速で進めるための中核的機能強化事業	長谷川 奉延	医学部	163,295,000	補委○	(国研)日本医療研究開発機構(AMED)

臨床研究総合促進事業	長谷川 奉延	医学部	15,131,000	補○ 委	厚生労働省	計 289件
臨床研究におけるリアルワールドデータ活用のための人材育成支援・調査事業	長谷川 奉延	医学部	41,419,804	補 委○	厚生労働省	

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takabayashi K, Kobayashi T, Matsuoka K et al.	内視鏡センター	Artificial intelligence quantifying endoscopic severity of ulcerative colitis in gradation scale	Dig Endosc. 2024 May;36(5): 582-590.	Original Article
2	Takabayashi K, Sugimoto S, Nanki K et al.	内視鏡センター	Characteristics of flat-type ulcerative colitis-associated neoplasia on chromoendoscopic imaging with indigo carmine dye spraying	Dig Endosc. 2024 Apr;36(4): 446-454.	Original Article
3	Watanabe D, Nakato D, Yamada M et al.	臨床遺伝学センター	SALL4 deletion and kidney and cardiac defects associated with VACTERL association	Pediatr Nephrol. 2024 Aug;39(8): 2347-2349.	Case report
4	Kashiwagi K, Yoshida T, Fukuhara K et al.	予防医療センター	Optimal number of images and 2-year interval affect cancer detection in screening esophagogastroduodenoscopy: An observational study	Medicine (Baltimore). 2024 Jun 28;103(26): e38774.	Original Article
5	Wakaizumi K, Tanaka C, Shinohara Y et al.	麻酔学	Geographical variation in high-impact chronic pain and psychological associations at the regional level: a multilevel analysis of a large-scale internet-based cross-sectional survey	Front Public Health. 2024 Dec 12;12: 1482177. (オンライン)	Original Article
6	Ueda I, Kohsaka S, Numasawa Y et al.	内科学(循環器)	Comparative incidence and risk factors for gastrointestinal bleeding following percutaneous coronary intervention for coronary artery disease: Insights from the Keio Cardiovascular Registry in Japan	Thromb Res. 2024 Nov;243: 109150.	Original Article
7	Ueda I, Kohsaka S, Ikemura N et al.	内科学(循環器)	Patient concern regarding bleeding side effects from oral anticoagulation therapy for atrial fibrillation: an analysis from the multicentre KiCS-AF registry	Eur J Cardiovasc Nurs. 2024 May 28;23(4): 358-366.	Original Article
8	Iwata J, Hayashida K, Arita R et al.	内科学(循環器)	Long-Term Impact of Gender Differences After Transcatheter Aortic Valve Implantation	CJC Open. 2024 Aug 30;6(12): 1453-1461. (オンライン)	Original Article
9	Miyama H, Ikemura N, Kimura T et al.	内科学(循環器)	Predictors and incidence of health status deterioration in patients with early atrial fibrillation	Heart Rhythm. 2024 Sep;21(9): 1469-1476.	Original Article
10	Saito T, Tsuruta H, Iwata J et al.	内科学(循環器)	Impact of beta-blocker uptitration on patients after transcatheter edge-to-edge mitral valve repair for secondary mitral regurgitation: The OCEAN-mitral registry	Int J Cardiol. 2025 Jan 1:418: 132595.	Original Article
11	Yamashita S, Katsumata Y, Kohsaka S et al.	内科学(循環器)	Electronic Patient-Reported Outcome System Implementation in Outpatient Cardiovascular Care: A Randomized Clinical Trial	JAMA Netw Open. 2025 Jan 2;8(1): e2454084. (オンライン)	Original Article
12	Sawano M, Kohsaka S, Murugiah K et al.	内科学(循環器)	Association of door-to-balloon time and one-year outcomes in hospital survivors of ST-elevation myocardial infarction	J Cardiol. 2025 Feb;85(2): 98-99.	Original Article
13	Nakamaru R, Shiraishi Y, Kohno T et al.	内科学(循環器)	Treatment patterns and trajectories in patients after acute heart failure hospitalization	ESC Heart Fail. 2024 Apr;11(2): 692-701.	Original Article

14	Shiraishi Y, Kurita Y, Mori H et al.	内科学(循環器)	Timing of Worsening Renal Function in Patients Hospitalized for Heart Failure Exacerbation Who Were Being Treated With Intravenous Diuretic Therapy	Circ J. 2024 Apr 25;88(5): 680–691.	Original Article
15	Kohsaka S, Nishimura S, Kumamaru H	内科学(循環器)	Letter by Kohsaka et al Regarding Article, "Safety of Switching From a Vitamin K Antagonist to a Non-Vitamin K Antagonist Oral Anticoagulant in Frail Older Patients With Atrial Fibrillation: Results of the FRAIL-AF Randomized Controlled Trial"	Circulation. 2024 Jul 9;150(2): e28–e29.	Letter
16	Munakata K, Miyashita H, Yamada Y et al.	歯科・口腔外科学	Factors affecting the quality of life of patients with medication-related osteonecrosis of the jaw during treatment: A quality-of-life survey and causal analysis	J Craniomaxillofac Surg. 2024 Jun;52(6): 715–721.	Original Article
17	Horikawa H, Tanese K, Nonaka N et al.	皮膚科学	Reliable and easy-to-use calculating tool for the Nail Psoriasis Severity Index using deep learning	NPJ Syst Biol Appl. 2024 Nov 7;10(1):130. (オンライン)	Original Article
18	Hirai I, Tanese K, Nakamura Y et al.	皮膚科学	Phase II clinical trial of docetaxel and trastuzumab for HER2-positive advanced extramammary Paget's disease (EMPD-HER2DOC)	Oncologist. 2024 Sep 6;29(9): e1201–e1208.	Original Article
19	Watanabe M Okochi R, Tezuka T et al.	放射線科学	Spontaneous haemorrhage in subdural hygroma in an Alzheimer's patient on lecanemab	BMJ Case Rep. 2025 Jan 8;18(1): e263497. (オンライン)	Case report
20	Tamura T, Narumiya H, Homma K et al.	救急医学	Combination of Hydrogen Inhalation and Hypothermic Temperature Control After Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Post hoc Analysis of the Efficacy of Inhaled Hydrogen on Neurologic Outcome Following Brain Ischemia During PostCardiac Arrest Care II Trial	Crit Care Med. 2024 Oct 1;52(10): 1567–1576.	Original Article
21	Yamamoto R, Sato Y, Sasaki J	救急医学	Pediatric burn injury at home over 30 years: A road to future prevention	Burns. 2025 Feb;51(1): 107317.	Original Article
22	Nishida Y, Yamamoto R, Ono S et al.	救急医学	Association between preoperative lactate level and early complications after surgery for isolated extremity fracture	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Apr 23;25(1): 314. (オンライン)	Original Article
23	Maeshima K, Yamamoto R, Matsumura K et al.	救急医学	Fungal infection-related conditions and outcomes in severe COVID-19: a nationwide case-control study	BMC Infect Dis. 2024 Dec 18;24(1): 1435. (オンライン)	Original Article
24	Funabiki S, Yamamoto R, Homma K et al.	救急医学	Delta Shock Index and higher incidence of emergency surgery in older adults with blunt trauma	Eur J Trauma Emerg Surg. 2024 Apr;50(2): 561–566.	Original Article
25	Udagawa K, Yamamoto R, Shimatani N et al.	救急医学	Simple parameters to identify patients treatable with early definitive fixation: A nationwide study	Injury. 2024 Jun;55(6): 111117.	Original Article
26	Yamamoto R, Sato Y, Maeshima K et al.	救急医学	Pediatric Blunt Liver and Spleen Injury Treated in Hospitals With Pediatric Intensive Care Units: Post-hoc Analysis of a Multicenter, Retrospective Observational Study	J Pediatr Surg. 2025 Mar;60(3): 162106.	Original Article
27	Yamamoto R, Sato Y, Cestero RF et al.	救急医学	Follow-up computed tomography and unexpected hemostasis in non-operative management of pediatric blunt liver and spleen injury	Eur J Trauma Emerg Surg. 2024 Dec;50(6): 3115–3124.	Original Article
28	Yamamoto R, Yamakawa K, Yoshizawa J et al.	救急医学	Urine Output and Development of Acute Kidney Injury in Sepsis: A Multicenter Observational Study	J Intensive Care Med. 2025 Feb;40(2): 191–199.	Original Article
29	Yamamoto R, Hirakawa S, Tachimori H et al.	救急医学	Simple severity scale for perforated peptic ulcer with generalized peritonitis: a derivation and internal validation study	Int J Surg. 2024 Nov 1;110(11): 7134–7141. (オンライン)	Original Article

30	Matsuoka T, Yamakawa K, Iba T et al.	救急医学	Persistent and Late-Onset Disseminated Intravascular Coagulation Are Closely Related to Poor Prognosis in Patients with Sepsis	Thromb Haemost. 2024 May;124(5): 399-407.	Original Article
31	Mikita K, Mori T, Komine T et al.	感染症学	Development of a LAMP method with lateral flow DNA chromatography to diagnose toxoplasmosis in immunocompromised patients	Trop Med Health. 2024 Jul 8;52(1):45. (オンライン)	Original Article
32	Tanaka H, Asakura T, Okamori S et al.	内科学(呼吸器)	Distinctive clinical features of radiological pleuroparenchymal fibroelastosis with nontuberculous mycobacterial pulmonary disease: A multicenter retrospective cohort study	Int J Infect Dis. 2024 Nov;148: 107233.	Original Article
33	Tokuyasu D, Suzuki S, Uzawa A et al.	内科学(神経)	Real-world experience with eculizumab and switching to ravulizumab for generalized myasthenia gravis	Ann Clin Transl Neurol. 2024 May;11(5): 1338-1346.	Original Article
34	Tezuka T, Nukariya T, Takahashi N et al.	内科学(神経)	Repeated Intravenous Methylprednisolone May Prevent Deterioration of Hypertrophic Pachymeningitis in Rosai-Dorfman Disease	Intern Med. 2025 Feb 1;64(3): 459-462.	Case report
35	Okusa S, Saegusa H, Miyakawa K et al.	内科学(神経)	Satisfaction, effectiveness, and usability of telerehabilitation for Parkinson's disease patients	J Rehabil Med. 2025 Jan 3;57: jrm39819. (オンライン)	Original Article
36	Takizawa T, Kitano T, Togo K et al.	内科学(神経)	Clinical practice for migraine treatment and characteristics of medical facilities and physicians treating migraine: Insights from a retrospective cohort study using a Japanese claims database	PLoS One. 2024 Dec 19;19(12): e0315610. (オンライン)	Original Article
37	Ihara K, Takahashi N, Ohtani S et al.	内科学(神経)	Real-world Efficacy of Erenumab on Migraine-associated Symptoms and Patient-reported Satisfaction Levels: A Retrospective Study in Japan	Intern Med. 2025 Mar 15;64(6): 825-831.	Original Article
38	Kida H, Niimura H, Eguchi Y et al.	精神・神経科学	Relationship Between Life Satisfaction and Psychological Characteristics Among Community-Dwelling Oldest-old: Focusing on Erikson's Developmental Stages and the Big Five Personality Traits	Am J Geriatr Psychiatry. 2024 Jun;32(6): 724-735.	Original Article
39	Funayama M, Kurose S, Takata T et al.	精神・神経科学	Identifying reversible psychiatric dementia mimics in new memory clinic outpatients	J Alzheimers Dis Rep. 2025 Mar 21;9: 25424823251329804. (オンライン)	Original Article
40	Takeuchi H	精神・神経科学	Are all antipsychotic dose reduction trials in stable schizophrenia the same?	Schizophr Res. 2025 Mar;277:31-32.	Letter
41	Koreki A, Ogyu K, Miyazaki T et al.	精神・神経科学	Aberrant heartbeat-evoked potential in schizophrenia	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2024 Jun 8;132: 110969.	Original Article
42	Kinjo M, Honda S, Wada M et al.	精神・神経科学	A comparative study of the dorsolateral prefrontal cortex targeting approaches for transcranial magnetic stimulation treatment: Insights from the healthy control data	Brain Res. 2024 Sep 1;1838: 148989.	Original Article
43	Noda Y, Takano M, Wada M et al.	精神・神経科学	Validation of the number of pulses required for TMS-EEG in the prefrontal cortex considering test feasibility	Neuroscience. 2024 Aug 30;554: 63-71.	Original Article
44	Mimura Y, Tobar Y, Nakajima S et al.	精神・神経科学	Decreased short-latency afferent inhibition in individuals with mild cognitive impairment: A TMS-EEG study	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2024 Jun 8;132: 110967.	Original Article
45	Ohtani Y, Tani H, Nomoto-Takahashi K et al.	精神・神経科学	Efficacy and safety of intravenous ketamine treatment in Japanese patients with treatment-resistant depression: A double-blind, randomized, placebo-controlled trial	Psychiatry Clin Neurosci. 2024 Dec;78(12): 765-775.	Original Article

46	Takano M, Wada M, Nakajima S et al.	精神・神経科学	Optimizing the identification of long-interval intracortical inhibition from the dorsolateral prefrontal cortex	Clin Neurophysiol. 2025 Jan;169: 102-113.	Original Article
47	Takahashi K, Noda Y, Hondo N et al.	精神・神経科学	Abnormal neuritic microstructures in the anterior limb of internal capsules in treatment-resistant depression - A cross-sectional NODDI study	J Psychiatr Res. 2025 Mar;183:93-99.	Original Article
48	Wada M, Nakajima S, Honda S et al.	精神・神経科学	Decreased prefrontal glutamatergic function is associated with a reduced astrocyte-related gene expression in treatment-resistant depression	Transl Psychiatry. 2024 Nov 25;14(1): 478. (オンライン)	Original Article
49	Koreki A, Nozaki S, Shikimoto R et al.	精神・神経科学	A longitudinal cohort study demonstrating the beneficial effect of moderate consumption of green tea and coffee on the prevention of dementia: The JPHC Saku Mental Health Study	J Alzheimers Dis. 2025 Jan;103(2): 519-527.	Original Article
50	Ihara S, Katayama N, Nogami W et al.	精神・神経科学	Comparison of changes in stress coping strategies between cognitive behavioral therapy and pharmacotherapy	Front Psychiatry. 2024 Apr 15;15: 1343637. (オンライン)	Original Article
51	Kubo K, Takehara M, Hirata M et al.	精神・神経科学	Effects of Intravenous Hydroxyzine Versus Haloperidol Monotherapy for Delirium: A Retrospective Study	J Clin Psychiatry. 2025 Jan 6;86(1): 24m15569. (オンライン)	Original Article
52	Abe A, Takeuchi M, Kobayashi M et al.	精神・神経科学	Qualitative analysis of expressions used in the end-of-life discussions and their associated factors	Palliat Support Care. 2024 Apr;22(2): 374-380.	Original Article
53	Oi H, Wen W, Chang AY et al.	精神・神経科学	Hierarchical analysis of the sense of agency in schizophrenia: motor control, control detection, and self-attribution	Schizophrenia (Heidelb). 2024 Sep 29;10(1):79. (オンライン)	Original Article
54	Kurokawa S, Nomura K, Sanada K et al.	精神・神経科学	A comparative study on dietary diversity and gut microbial diversity in children with autism spectrum disorder, attention-deficit hyperactivity disorder, their neurotypical siblings, and non-related neurotypical volunteers: a cross-sectional study	J Child Psychol Psychiatry. 2024 Sep;65(9): 1184-1195.	Original Article
55	Takahashi S, Toda M	脳神経外科学	Assessment of donor-vessel after STA-MCA bypass for moyamoya disease using handheld Doppler to confirm bypass patency and predict perioperative hyperperfusion	World Neurosurg X. 2024 Sep 23;24: 100398. (オンライン)	Original Article
56	Takahashi S, Hase M, Toda M	脳神経外科学	Development of the external carotid artery system including the middle temporal artery after direct-indirect revascularization surgery for moyamoya disease	J Clin Neurosci. 2024 May;123:77-83.	Original Article
57	Yamamoto K, Akiyama T, Mizutani K et al.	脳神経外科学	Angiographical Investigation of Vagal and Carotid Body Paragangliomas	J Neuroendovasc Ther. 2025;19(1): 2024-0096.	Original Article
58	Hino U, Tamura R, Kosugi K et al.	脳神経外科学	Optimizing perampanel monotherapy for surgically resected brain tumors	Mol Clin Oncol. 2024 Apr 30;20(6):42. (オンライン)	Original Article
59	Takahara K, Mizutani K, Yamada Y et al.	脳神経外科学	Upright CT-based evaluation of the effects of posture on skull-base reconstruction after endoscopic endonasal surgery	Sci Rep. 2024 Sep 1;14(1): 20303. (オンライン)	Original Article
60	Takahara K, Tamura R, Isomura E et al.	脳神経外科学	Variable anatomical features of acromegaly in the nasal cavity and paranasal sinuses: implications for endoscopic endonasal transsphenoidal surgery	Acta Neurochir (Wien). 2024 Oct 15;166(1): 408. (オンライン)	Original Article
61	Ezaki T, Tanaka T, Tamura R et al.	脳神経外科学	Status of alternative angiogenic pathways in glioblastoma resected under and after bevacizumab treatment	Brain Tumor Pathol. 2024 Apr;41(2): 61-72. (オンライン)	Original Article

62	Tamura R, Yamanobe Y, Fujioka M et al.	脳神経外科学	Phase I/II Study of a Vascular Endothelial Growth Factor Receptor Vaccine in Patients With NF2-Related Schwannomatosis	J Clin Oncol. 2024 Jul 20;42(21): 2578–2587.	Original Article
63	Mizutani K, Miyauchi T, Yamada Y et al.	脳神経外科学	Exploration of postural effects on the external jugular and diploic venous system using upright computed tomography scanning	Neuroradiology. 2024 Jun;66(6): 963–971.	Original Article
64	Kawano S, Eguchi Y, Oosumi A et al.	看護部	Establishment and clinical impacts of decision-support system for older patients with aortic valve stenosis: A retrospective observational study	Gen Hosp Psychiatry. 2025 Jan-Feb;92: 106–111.	Original Article
65	Aoki D, Tabata T, Yanagida S et al.	産婦人科学	Niraparib in Japanese patients with heavily pretreated, homologous recombination-deficient ovarian cancer: final results of a multicenter phase 2 study	J Gynecol Oncol. 2024 Sep;35(5):e114.	Original Article
66	Takahashi M, Nakamura K, Chiyoda T et al.	産婦人科学	Transcriptome Concordance Between Borderline Tumors and Endometrioid Carcinoma: An Integrative Genomic Analysis	Cancer Med. 2025 Jan;14(2): e70601.	Original Article
67	Tamai J, Ikenoue S, Akita K et al.	産婦人科学	Efficacy of controlled-release dinoprostone vaginal insert for elective induction of labor before due date	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Dec;50(12): 2226–2230.	Original Article
68	Kasuga Y, Takahashi M, Kajikawa K et al.	産婦人科学	Multiple positive points during the 75 g oral glucose tolerance test are good predictors for early insulin therapy in gestational diabetes mellitus diagnosed before 24 gestational weeks	J Diabetes Investig. 2024 Dec;15(12): 1803–1808.	Original Article
69	Kasuga Y, Takahashi M, Kajikawa K et al.	産婦人科学	Perinatal Outcomes of Diet Therapy in Gestational Diabetes Mellitus Diagnosed before 24 Gestational Weeks	Nutrients. 2024 May 21;16(11): 1553.	Original Article
70	Ikenoue S, Akiba Y, Ishii R et al.	産婦人科学	Association of maternal obesity with growth of fetal fractional limb volume	Early Hum Dev. 2024 Apr;191: 105990.	Original Article
71	Sakakura S, Yamazaki R, Uchino Y et al.	眼科学	Non-Descemet stripping endothelial keratoplasty for bullous keratopathy in patients with atopic dermatitis: A long-term case report	Medicine (Baltimore). 2024 Sep 27;103(39): e39767.	Case report
72	Hazra D, Yotsukura E, Oyama S et al.	眼科学	Axial Length Stabilization or Reduction in over 40% of Patients Wearing Extended Depth-of-Focus Contact Lenses	J Clin Med. 2025 Mar 5;14(5): 1750. (オンライン)	Original Article
73	Ayaki M, Hanyuda A, Negishi K	眼科学	Presbyopia, Dry Eye, and Retinal Thickness in the Middle-Aged Population: Focusing on Sex Differences	Clin Optom (Auckl). 2024 Sep 2;16: 223–231. (オンライン)	Original Article
74	Ayaki M, Hanyuda A, Negishi K	眼科学	Symptomatic Presbyopia may Develop Earlier in Patients With Glaucoma—A Cross-Sectional Retrospective Cohort Study	Transl Vis Sci Technol. 2024 Apr 2;13(4):21.	Original Article
75	Ibrahim OMA, Ayaki M, Yotsukura E et al.	眼科学	A Possible Reciprocal Relationship Between Myopia and Dry Eye Disease in Japanese Teenagers	Clin Ophthalmol. 2024 Jul 10;18: 1991–1998.	Original Article
76	Yokobori K, Ayaki M, Kawashima M et al.	眼科学	Effect of Eyelid Hygiene on Functional Visual Acuity After Cataract Surgery: A Randomized Controlled Study	Clin Ophthalmol. 2024 May 2;18: 1207–1216. (オンライン)	Original Article
77	Hanyuda A, Raita Y, Ninomiya T et al.	眼科学	Metabolomic Profiling of Open-Angle Glaucoma Etiologic Endotypes: Tohoku Multi-Omics Glaucoma Study	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2024 Nov 4;65(13):44.	Original Article
78	Hanyuda A, Kubota M, Kubota S et al.	眼科学	Establishing the cutoff value of near visual acuity for assessment of early presbyopia	Jpn J Ophthalmol. 2024 Nov;68(6): 709–716.	Original Article

79	Nishizawa K, Harato K, Kobayashi S et al.	整形外科科学	Alteration of knee joint moment after anterior cruciate ligament reconstruction conditions in subjects with and without meniscal pathology	Knee. 2024 Jun;48:8-13.	Original Article
80	Inaba N, Iwamoto T, Ishii K et al.	整形外科科学	Prospective Study on Splinting for First Carpometacarpal Joint: A Comparison of Conventional and Three-Dimensional Printed Splint	J Clin Med. 2024 Nov 22;13(23):7043. (オンライン)	Original Article
81	Nishizawa K, Harato K, Hakukawa S et al.	整形外科科学	Differences in kinematics and kinetics during gait between total knee arthroplasty implant designs	Clin Biomech (Bristol). 2025 Feb;122:106404.	Original Article
82	Nagoshi N, Okubo T, Ozaki M et al.	整形外科科学	Epidemiology and surgical outcomes of pediatric intradural spinal tumors: results from a retrospective series of patients operated in the first two decades of life	Spinal Cord. 2025 Feb;63(2):75-79.	Original Article
83	Okubo T, Nagoshi N, Iga T et al.	整形外科科学	Does the presence or absence of preoperative lower extremity neurologic symptoms influence postoperative clinical outcome in patients with cervical intradural extramedullary tumors?: a single-center retrospective comparative study	Spinal Cord. 2025 Jan;63(1):9-15.	Original Article
84	Okubo T, Nagoshi N, Tsuji O et al.	整形外科科学	Impact of Surgical Resection Without Spinal Fusion for Thoracic Dumbbell Tumors on Postoperative Global Spinal Sagittal Alignment and Clinical Outcomes	Global Spine J. 2025 Mar;15(2):790-799.	Original Article
85	Sasaki R, Niki Y, Kaneda K et al.	整形外科科学	Discrepancies in long-leg alignment and knee joint line obliquity between two- and three-dimensional measurements under weight-bearing conditions: Effects on coronal plane alignment of the knee classification	Knee. 2025 Mar;53:237-245.	Original Article
86	Tomita Y, Yagi M, Seki F et al.	整形外科科学	The significance of cerebrospinal fluid dynamics in adolescent idiopathic scoliosis using time-SLIP MRI	Sci Rep. 2024 May 28;14(1):12214. (オンライン)	Original Article
87	Okubo T, Nagoshi N, Iga T et al.	整形外科科学	Does the presence of preoperative neck pain impact clinical outcomes after posterior decompression in patients with cervical ossification of the posterior longitudinal ligament?: Retrospective multicenter cohort study	Spinal Cord. 2024 Nov;62(11):619-624.	Original Article
88	Sasaki R, Niki Y, Kaneda K et al.	整形外科科学	The tibial tubercle-to-trochlear groove distance changes in standing weight-bearing condition: An upright weight-bearing computed tomography analysis	Knee. 2024 Jun;48:14-21.	Original Article
89	Yoshida Y, Matsumura N, Yamada Y et al.	整形外科科学	Verification of acromion marker cluster and scapula spinal marker cluster methods for tracking shoulder kinematics: a comparative study with upright four-dimensional computed tomography	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Jul 26;25(1):589. (オンライン)	Original Article
90	Kato S, Maeda Y, Nagura T et al.	整形外科科学	Comparison of three artificial intelligence algorithms for automatic cobb angle measurement using teaching data specific to three disease groups	Sci Rep. 2024 Aug 3;14(1):17989. (オンライン)	Original Article
91	Matsuo T, Iwamoto T, Kiyota Y et al.	整形外科科学	Accuracy of Implant Placement Based on Three-Dimensional Preoperative Planning in Total Elbow Arthroplasty	J Hand Surg Asian Pac Vol. 2024 Oct;29(5):397-407.	Original Article
92	Tabata T, Yagi M, Suzuki S et al.	整形外科科学	Dysregulation of Inflammatory Pathways in Adult Spinal Deformity Patients with Frailty	J Clin Med. 2024 Apr 16;13(8):2294. (オンライン)	Original Article
93	Mizukoshi R, Yagi M, Yamada Y et al.	整形外科科学	Physiological rotation patterns of the thoracolumbar spine across different ages: A detailed analysis using upright CT	Gait Posture. 2024 Oct;114:305-312.	Original Article

94	Kawai M, Yagi M, Okubo T et al.	整形外科学	The Effect of Age-Adjusted Sagittal Alignment on the Result of Posterior Decompression Surgery for Lumbar Spinal Canal Stenosis	Spine (Phila Pa 1976). 2024 Jul 15;49(14): 1004-1011.	Original Article
95	Mikoshiha T, Sekimizu M, Kono T et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Utility and optimal management of planned drug holidays during lenvatinib treatment in patients with unresectable differentiated thyroid cancer: a real-world multi-center study	Endocrine. 2024 Aug;85(2): 777-785.	Original Article
96	Hosoya M, Iwabu K, Hasebe N et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Binaural hearing aid intervention for a patient with nonserviceable hearing loss after surgery for vestibular schwannoma: A case report	Sci Prog. 2024 Apr-Jun;107(2): 368504241262195.	Case report
97	Tomisato S, Mori T, Asano K et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Speech characteristics that differentiate stuttering and cluttering in Japanese speakers	Front Psychol. 2024 Nov 14;15: 1408929. (オンライン)	Original Article
98	Wakabayashi T, Tamura R, Karatsu K et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Natural history of hearing and tumor growth in vestibular schwannoma in neurofibromatosis type 2-related schwannomatosis	Eur Arch Otorhinolaryngol. 2024 Aug;281(8): 4175-4182.	Original Article
99	Hosoya M, Nishiyama T, Shimanuki MN et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Long-term hearing prognosis after vestibular schwannoma surgery with retrolabyrinthine approach	Eur Arch Otorhinolaryngol. 2024 Nov;281(11): 5699-5707.	Original Article
100	Narumi S, Nagasaki K, Kiriya M et al.	小児科学	Functional variants in a TTTG microsatellite on 15q26.1 cause familial nonautoimmune thyroid abnormalities	Nat Genet. 2024 May;56(5): 869-876.	Original Article
101	Ogawa E, Sakaguchi Y, Kaneko T et al.	小児科学	Early-phase EEG power spectrum analysis may differentiate acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion from prolonged febrile seizures	Epilepsy Res. 2025 Feb;210: 107515.	Original Article
102	Kono T, Sumitomo NF, Yamagishi H et al.	小児科学	Emergent surgical intervention for a neonate with premature constriction of the ductus arteriosus with ductal-dependent tricuspid atresia: a case report	Eur Heart J Case Rep. 2024 Nov 29;8(12): ytac640. (オンライン)	Case report
103	Furuichi M, Ohnishi T, Yaginuma M et al.	小児科学	Live-attenuated vaccine failure after liver transplantation: A 20-year cohort study	Vaccine. 2025 Jan 1;43(Pt 1): 126527.	Original Article
104	Munenaga T, Ichihashi Y, Nakano S et al.	小児科学	Characteristic external genitalia in male neonates with 5 α -reductase deficiency	Endocr J. 2024 Oct 1;71(10): 973-978.	Original Article
105	Iwashita N, Okuda S, Maeda J et al.	小児科学	Flow pattern analysis of right ventricular outflow tract in repaired tetralogy of Fallot through 4D flow MRI	Heart Vessels. 2024 Jun;39(6): 556-562.	Original Article
106	Okura M, Suzuki Y, Nakamura Y et al.	形成外科学	The Usefulness of Portable Echo in the Preoperative Mapping of Lymphaticovenular Anastomosis	J Surg Oncol. 2025 Jan;131(1): 72-76.	Original Article
107	Konno Matoba E, Yazawa M, Imanishi N et al.	形成外科学	Anatomical analysis of the periosteal blood supply system of the fibula using fresh cadavers	JPRAS Open. 2024 Sep 12;43: 309-316. (オンライン)	Original Article
108	Wada M, Nakajima S, Taniguchi K et al.	精神・神経科学	Effectiveness of sequential bilateral repetitive transcranial stimulation versus bilateral theta burst stimulation for patients with treatment-resistant depression (BEAT-D): A randomized non-inferiority clinical trial	Brain Stimul. 2025 Jan-Feb;18(1): 25-33. (オンライン)	Original Article
109	Ito D, Kawakami M, Hosoi Y et al.	リハビリテーション医学	Development of a quantitative assessment for abnormal flexor synergy index in patients with stroke: a validity and responsiveness study	J Neuroeng Rehabil. 2024 Dec 27;21(1): 229. (オンライン)	Original Article

110	Ito D, Fukuda M, Hosoi Y et al.	リハビリテーション医学	Optimizing shoulder elevation assist rate in exoskeletal rehabilitation based on muscular activity indices: a clinical feasibility study	BMC Neurol. 2024 May 9;24(1): 144. (オンライン)	Original Article
111	Okada K, Okawada M, Yoneta M et al.	リハビリテーション医学	Cognitive effect of passively induced kinesthetic perception associated with virtual body augmentation modulates spinal reflex	J Neurophysiol. 2025 Jan 1;133(1): 69–77.	Original Article
112	Takeuchi T, Nakanishi M, Kawanishi M et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Effect of the extended dosing interval of anti-TNF- α NANOBODY® compound ozoralizumab in patients with low disease activity rheumatoid arthritis	Mod Rheumatol. 2024 Jul 6;34(4): 678–685.	Original Article
113	Seishima R, Tachimori H, Fukuda K et al.	外科学(一般・消化器)	Impact of COVID-19 on hospital visit behaviour in cancer patients in Japan: a nationwide study	BMJ Open. 2024 Dec 26;14(12): e084630. (オンライン)	Original Article
114	Takeuchi M, Endo H, Hibi T et al.	外科学(一般・消化器)	Association between the COVID-19 pandemic and short-term outcomes after esophagectomy for esophageal cancer in facilities with and without board-certified esophageal surgeons: a nationwide retrospective cohort study	Esophagus. 2025 Jan;22(1):37–46.	Original Article
115	Takeuchi M, Endo H, Hibi T et al.	外科学(一般・消化器)	Impact of the COVID-19 pandemic on the number and short-term outcomes in hepatectomy for hepatocellular carcinoma: Results from the Japanese National Clinical Database, 2018–2021	Hepatol Res. 2024 Jul;54(7): 685–694.	Original Article
116	Takemura Y, Shinoda M, Kasahara M et al.	外科学(一般・消化器)	Improved survival of pediatric deceased donor liver transplantation recipients after introduction of the pediatric prioritization system: Analysis of data from a Japanese national survey	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Nov;31(11): 782–797.	Original Article
117	Matsuda S, Hoshino S, Goto T et al.	外科学(一般・消化器)	Identifying intense inflammatory subtype of esophageal squamous cell carcinoma using clustering approach	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Jun;72(6): 417–425.	Original Article
118	Tsuji T, Matsuda S, Sato Y et al.	外科学(一般・消化器)	Safety and Efficacy of Conversion Therapy After Systemic Chemotherapy in Advanced Esophageal Cancer with Distant Metastases: A Multicenter Retrospective Observational Study	Ann Surg Oncol. 2025 Jan;32(1): 274–283.	Original Article
119	Kato Y, Shigeta K, Tajima Y et al.	外科学(一般・消化器)	Combined Comprehensive Risk Score of the Estimation of Physiologic Ability and Surgical Stress and C-Reactive Protein-to-Albumin Ratio Is a Strong Prognostic Indicator of Long-term Outcomes in Colorectal Cancer	Dis Colon Rectum. 2024 Oct 1;67(10): 1271–1280.	Original Article
120	Kitago M, Endo Y, Aiura K et al.	外科学(一般・消化器)	Adjuvant 5-fluorouracil and portal vein infusion chemotherapy followed by gemcitabine for pancreatic cancer	Cancer Med. 2024 Jul;13(14): e7459.	Original Article
121	Kojima H, Abe Y, Udagawa D et al.	外科学(一般・消化器)	New criteria for preoperative liver function assessment with safety margins to avoid postoperative mortality during liver resection for hilar cholangiocarcinoma	HPB (Oxford). 2025 Feb;27(2): 159–166.	Original Article
122	Mizuno S, Shigeta K, Kato Y et al.	外科学(一般・消化器)	Stratification of Stage II Colon Cancer Using Recurrence Prediction Value: A Multi-institutional International Retrospective Study	Ann Surg. 2024 Aug 1;280(2): 274–282.	Original Article
123	Takeuchi M, Obara H, Furube T et al.	外科学(一般・消化器)	Efficacy of aqueous olanexidine compared with alcohol-based chlorhexidine for surgical skin antisepsis regarding the incidence of surgical-site infections in clean-contaminated surgery: a randomized superiority trial	Br J Surg. 2025 Mar 28;112(4): znaf065.	Original Article

124	Nakano Y, Abe Y, Udagawa D et al.	外科学(一般・消化器)	Safety and efficacy of pancreaticogastrostomy for hepatopancreatoduodenectomy compared to pancreaticojejunostomy for perihilar cholangiocarcinoma	World J Surg Oncol. 2025 Mar 20;23(1):97. (オンライン)	Original Article
125	Shimane G, Kitago M, Endo Y et al.	外科学(一般・消化器)	Efficacy and safety of neoadjuvant S-1-based chemoradiotherapy in resectable and borderline-resectable pancreatic cancer: a long-term follow-up study	World J Surg Oncol. 2024 Dec 20;22(1):336. (オンライン)	Original Article
126	Hayakawa N, Mizuno R, Tanaka T et al.	泌尿器科学	Comparing the efficacy of tadalafil and tamsulosin for managing erectile dysfunction and lower urinary tract symptoms in prostate brachytherapy patients: a prospective study	Prostate Int. 2024 Dec;12(4):231-237.	Original Article
127	Yanai Y, Mikami S, Yasumizu Y et al.	泌尿器科学	Loss of phosphatase and tensin homolog expression castration-sensitive prostate cancer predicts outcomes in men after prostatectomy	Int J Urol. 2025 Jan;32(1):39-44.	Original Article
128	Matsumoto K, Kosaka T, Takeda T et al.	泌尿器科学	Appropriate definition of non-metastatic castration-resistant prostate cancer (nmCRPC) and optimal timing of androgen receptor signaling inhibitor (ARSI)	Int J Clin Oncol. 2024 Aug;29(8):1198-1203.	Original Article
129	Yanai Y, Kosaka T, Mikami S et al.	泌尿器科学	Dynamics in the Prostate Immune Microenvironment Induced by Androgen Deprivation Therapy	Prostate. 2025 Feb;85(3):308-314.	Original Article
130	Oya M, Ito T, Sato M et al.	泌尿器科学	Avelumab + axitinib treatment in older patients with advanced renal cell carcinoma in Japan: Subgroup analyses of post-marketing surveillance data by age	Cancer Med. 2025 Jan;14(2):e70186.	Original Article
131	Urabe F, Yoshioka T, Tashiro K et al.	泌尿器科学	Letter: Complications Following Transrectal and Transperineal Prostate Biopsy: Results of the ProBE-PC Randomized Clinical Trial	J Urol. 2024 Apr;211(4):622.	Letter
132	Nakayama T, Kaneko H, Okada A et al.	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	Association of Inflammatory Bowel Disease with Incident IgA Nephropathy	Clin J Am Soc Nephrol. 2024 Jun 1;19(6):704-711.	Letter
133	Azegami T, Kaneko H, Okada A et al.	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	Association of estimated glomerular filtration rate with the incidence of sleep apnea syndrome	Sleep. 2025 Mar 11;48(3):zsae302.	Original Article
134	Nakayama T, Kaneko H, Suzuki Y et al.	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	Chronic Tonsillitis and IgA Nephropathy: Findings From a Nationwide Japanese Cohort Study	Am J Kidney Dis. 2024 Nov;84(5):613-620.e1.	Original Article
135	Nakayama T, Morimoto K, Uchiyama K et al.	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	Efficacy of sucrose and povidone-iodine mixtures in peritoneal dialysis catheter exit-site care	BMC Nephrol. 2024 May 2;25(1):151. (オンライン)	Original Article
136	Satoh T, Nakatani E, Ariyasu H et al.	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	Pancreatic cancer risk in diabetic patients using the Japanese Regional Insurance Claims	Sci Rep. 2024 Jul 23;14(1):16958. (オンライン)	Original Article
137	Mitsuno R, Nakayama T, Morimoto K et al.	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	Early Initiation of Icodextrin Reduces Peritoneal Dialysis-Associated Peritonitis Risk: A Retrospective Cohort Study	Blood Purif. 2025;54(3):174-183.	Original Article
138	Mitsuno R, Nakayama T, Ito W et al.	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	The proteinuria selectivity index value predicts the remission of IgA nephropathy: a retrospective cohort study	Ren Fail. 2024 Dec;46(2):2423839.	Original Article
139	Kurata H, Meguro S, Abe Y et al.	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	Association of fish intake with all-cause mortality according to CRP levels or inflammation in older adults: a prospective cohort study	BMC Public Health. 2024 Oct 16;24(1):2822. (オンライン)	Original Article
140	Adachi K, Yasuda M, Ida M et al.	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	Impact of dietary habits on renal function in Saku, a rural Japanese town: a cohort study	Clin Exp Nephrol. 2024 Aug;28(8):751-763.	Original Article

141	Fukuda T, Aoki Y, Kiyohara H et al.	内科学(消化器)	Efficacy of Dose Escalation of Oral 5-Aminosalicylic Acid for Ulcerative Colitis With a Mayo Endoscopic Subscore of 1: An Open Label Randomized Controlled Trial	Inflamm Bowel Dis. 2025 Mar 3;31(3):716-724.	Original Article
142	Horibe M, Kayashima A, Ohbe H et al.	内科学(消化器)	Normal saline versus Ringer's solution and critical-illness mortality in acute pancreatitis: a nationwide inpatient database study	J Intensive Care. 2024 Jul 15;12(1):27. (オンライン)	Original Article
143	Takimoto Y, Iwasaki E, Horibe M et al.	内科学(消化器)	Capnographic monitoring using a novel mainstream system during endoscopic ultrasound and endoscopic retrograde cholangiopancreatography: A prospective randomized controlled trial	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2025 Mar;32(3):254-263.	Original Article
144	Kasuga R, Taniki N, Chu PS et al.	内科学(消化器)	Multiple asynchronous recurrence as a predictive factor for refractoriness against locoregional and surgical therapy in patients with intermediate-stage hepatocellular carcinoma	Sci Rep. 2024 May 13;14(1):10896. (オンライン)	Original Article
145	Miyazaki K, Nakayama A, Sasaki M et al.	内科学(消化器)	Resectability of Small Duodenal Tumors: A Randomized Controlled Trial Comparing Underwater Endoscopic Mucosal Resection and Cold Snare Polypectomy	Am J Gastroenterol. 2024 May 1;119(5):856-863.	Original Article
146	Hirata K, Yoshida K, Katada C et al.	内科学(消化器)	Definitive chemoradiotherapy with paclitaxel for locally advanced esophageal squamous cell carcinoma in older patients (PARADISE-1): a phase I trial	BMC Cancer. 2024 Jul 19;24(1):873. (オンライン)	Original Article
147	Watanabe M, Meguro S, Kimura K et al.	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	A machine learning model for predicting worsening renal function using one-year time series data in patients with type 2 diabetes	J Diabetes Investig. 2025 Jan;16(1):93-99.	Original Article
148	Meguro S, Sakane N, Hosoda K et al.	内科学(腎臓・内分泌・代謝)	Diurnal variation in the association between the scan frequency of isCGM and CGM metrics: post hoc analysis of the ISCHIA study	Diabetol Int. 2024 Aug 19;15(4):828-836. (オンライン)	Original Article
149	Watase M, Shiraishi Y, Chubachi S et al.	内科学(呼吸器)	Coronary Artery Calcification on Chest Computed Tomography as a Predictor of Cardiovascular Adverse Events in Patients With COVID-19 - A Multicenter Retrospective Study in Japan	Circ J. 2025 Feb 25;89(3):373-381.	Original Article
150	Ozawa T, Chubachi S, Namkoong H et al.	内科学(呼吸器)	Predicting coronavirus disease 2019 severity using explainable artificial intelligence techniques	Sci Rep. 2025 Mar 19;15(1):9459. (オンライン)	Original Article
151	Shigematsu L, Kimura R, Terai H et al.	内科学(呼吸器)	Social impact of brain fog and analysis of risk factors: Long COVID in Japanese population	Ann Clin Transl Neurol. 2024 Aug;11(8):2188-2200.	Original Article
152	Kamata H, Takamatsu K, Fukunaga K et al.	内科学(呼吸器)	Pulmonary function and chest CT abnormalities 3 months after discharge from COVID-19, 2020-2021: A nation-wide multicenter prospective cohort study from the Japanese respiratory society	Respir Investig. 2024 Jul;62(4):572-579.	Original Article
153	Shimada T, Maetani T, Chubachi S et al.	内科学(呼吸器)	Erector Spinae Muscle to Epicardial Visceral Fat Ratio on Chest CT Predicts the Severity of Coronavirus Disease 2019	J Cachexia Sarcopenia Muscle. 2025 Feb;16(1):e13721.	Original Article
154	Azekawa S, Maetani T, Chubachi S et al.	内科学(呼吸器)	CT-derived vertebral bone mineral density is a useful biomarker to predict COVID-19 outcome	Bone. 2024 Jul;184:117095.	Original Article
155	Matsuyama E, Miyata J, Terai H et al.	内科学(呼吸器)	Chronic obstructive pulmonary disease, asthma, and mechanical ventilation are risk factors for dyspnea in patients with long COVID: A Japanese nationwide cohort study	Respir Investig. 2024 Nov;62(6):1094-1101.	Original Article
156	Tanaka H, Chubachi S, Asakura T et al.	内科学(呼吸器)	Prognostic significance of chronic kidney disease and impaired renal function in Japanese patients with COVID-19	BMC Infect Dis. 2024 May 25;24(1):527. (オンライン)	Original Article

157	Sunata K, Miyata J, Terai H et al.	内科学(呼吸器)	Asthma is a risk factor for general fatigue of long COVID in Japanese nation-wide cohort study	Allergol Int. 2024 Apr;73(2): 206-213.	Original Article
158	Okada M, Ohgino K, Horiuchi K et al.	内科学(呼吸器)	Real-World Efficacy and Safety of Atezolizumab for Advanced Non-Small Cell Lung Cancer in Japan: A Retrospective Multicenter Analysis	J Clin Med. 2024 Dec 20;13(24): 7815. (オンライン)	Original Article
159	Takaoka H, Kawada I, Hiruma G et al.	内科学(呼吸器)	Long COVID among the first three waves of COVID-19 in Japan: a multicentre cohort study	BMJ Open Respir Res. 2024 Dec 25;11(1): e002137. (オンライン)	Original Article
160	Konishi S, Masaki K, Shimamoto K et al.	内科学(呼吸器)	The relationship between long COVID, labor productivity, and socioeconomic losses in Japan: A cohort study	IJID Reg. 2024 Nov 20:14: 100495. (オンライン)	Original Article
161	Ozawa T, Kimura R, Terai H et al.	内科学(呼吸器)	Calcium channel blockers may reduce the development of long COVID in females	Hypertens Res. 2024 Apr;47(4): 934-943.	Original Article
162	Sasaki M, Masunaga T, Miyazaki K et al.	腫瘍センター(低侵襲療法研究開発部門)	Automatic water irrigation synchronized with the electrosurgical unit: Bubble-free underwater endoscopic submucosal dissection	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01): E468-E469.	Original Article
163	Masunaga T, Takatori Y, Sasaki M et al.	腫瘍センター(低侵襲療法研究開発部門)	Novel perfusion system using continuous liquid-suction catheter attachment in colorectal endoscopic submucosal dissection with water pressure method (with video)	Dig Endosc. 2024 Sep;36(9): 1043-1050.	Original Article
164	Tamai H, Ikeda K, Miyamoto T et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Association of methotrexate polyglutamates concentration with methotrexate efficacy and safety in patients with rheumatoid arthritis treated with predefined dose: results from the MIRACLE trial	Ann Rheum Dis. 2025 Jan;84(1):41-48.	Original Article
165	Suzuki K, Kondo Y, Ishigaki S et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Clinical characteristics of cardiac involvement in idiopathic inflammatory myopathies: A retrospective cohort study	Int J Rheum Dis. 2024 Jul;27(7): e15273.	Original Article
166	Hanaoka H, Kikuchi J, Hiramoto K et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Dapagliflozin for rheumatic musculoskeletal disease in patients with chronic kidney disease	Mod Rheumatol. 2025 Feb 21;35(2): 345-351.	Original Article
167	Takei H, Kondo Y, Takanashi S et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Contrast of muscle magnetic resonance imaging and pathological findings of muscle tissue in patients with anti-aminoacyl transfer RNA synthetase antibodies	Mod Rheumatol. 2025 Feb 21;35(2): 307-313.	Original Article
168	Hishida T, Okami J, Asamura H et al.	外科学(呼吸器)	Clinicopathological Features and Survival Outcomes of Resected Lung Adenosquamous Carcinoma: Results From a Nationwide Japanese Registry Data	Clin Lung Cancer. 2024 Sep;25(6): 519-528.e3.	Original Article
169	Suzuki T, Hishida T, Suzuki S et al.	外科学(呼吸器)	Clinicopathological predictors of postoperative long-term myasthenic status in resected thymoma with myasthenia gravis	Surg Today. 2024 Jul;54(7): 787-794.	Original Article
170	Suzuki T, Asakura K, Yamada Y et al.	外科学(呼吸器)	Thoracic posture-related morphological changes in patients with pectus excavatum versus healthy controls	Eur J Cardiothorac Surg. 2024 Nov 4;66(5): ezae408.	Original Article
171	Kaseda K, Asakura K, Shintani Y et al.	外科学(呼吸器)	Surgically resected sarcomatoid carcinoma of the lung: a nationwide retrospective study in 2010	BMC Cancer. 2024 Aug 2;24(1): 938. (オンライン)	Original Article
172	Kayashima A, Horibe M, Iwasaki E et al.	内科学(消化器)	Bodyweight-Adjusted Nonsteroidal Anti-inflammatory Drugs Dose in the Prevention of Post-endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography Pancreatitis	Pancreas. 2025 Mar 1;54(3): e188-e193.	Original Article
173	Katsumata Y, Muramoto Y, Ishida N et al.	スポーツ医学総合センター	Sweat lactate sensor for detecting anaerobic threshold in heart failure: a prospective clinical trial (LacS-001)	Sci Rep. 2024 Aug 16;14(1): 18985. (オンライン)	Original Article

174	Kinoda A, Macznik A, Kimura T et al.	スポーツ医学総合センター	1-Year Prevalence and Factors Related to Injuries and Illnesses in Japanese Judo Collegiate Athletes	J Funct Morphol Kinesiol. 2024 Aug 28;9(3): 148. (オンライン)	Original Article
175	Yamaguchi T, Kitahara A, Sato K et al.	スポーツ医学総合センター	Differences in Mental Health Characteristics of Japanese Athletes in Outpatient Clinics Pre- and Post-Covid-19: A Repeated Cross-Sectional Observational Study	Open Access J Sports Med. 2024 Sep 27;15: 129-140. (オンライン)	Original Article
176	Iwata J, Hayashida K, Kajino A et al.	内科学(循環器)	Clinical outcomes, hemodynamics, and leaflet thrombosis following transcatheter aortic valve replacement with novel intra-annular devices	Health Sci Rep. 2025 Jan 30;8(2): e70097. (オンライン)	Original Article
177	Momoi M, Katsumata Y, Kunimoto H et al.	内科学(循環器)	Clonal Hematopoiesis in Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension	J Am Heart Assoc. 2024 Dec 3;13(23): e035498.	Original Article
178	Tojo A, Sujino T, Hayashi Y et al.	内科学(消化器)	Video capsule endoscopy in overt and occult obscure gastrointestinal bleeding: Insights from a single-center, observational study in Japan	DEN Open. 2024 Apr 1;4(1):e354. (オンライン)	Original Article
179	Takeuchi T, Chino Y, Mano Y et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Population Pharmacokinetics of Ozoralizumab in Patients with Rheumatoid Arthritis	J Clin Pharmacol. 2024 Apr;64(4): 418-427.	Original Article
180	Takeuchi T, Wakasugi N, Hashida T et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Long-Term Safety and Effectiveness of Tacrolimus in Patients With Lupus Nephritis in Japan: 10-Year Analysis of the Real-World TRUST Study	J Rheumatol. 2024 Jun 1;51(6): 613-621. (オンライン)	Original Article
181	Yamamoto R, Maeshima K, Funabiki T et al.	救急医学	Immediate Angiography and Decreased In-Hospital Mortality of Adult Trauma Patients: A Nationwide Study	Cardiovasc Intervent Radiol. 2024 Apr;47(4): 472-480.	Original Article
182	Imai Y, Ota Y, Matsumoto K et al.	内科学(リウマチ・膠原病)	Performance of the 2022 ACR/EULAR Classification Criteria in Comparison With the European Medicines Agency Algorithm in Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis	J Rheumatol. 2024 Nov 1;51(11): 1102-1110. (オンライン)	Original Article
183	Hirayama M., Htou S, Nomura M et al.	眼科学	A first-in-human clinical study of an allogenic iPSC-derived corneal endothelial cell substitute transplantation for bullous keratopathy	Cell Rep Med. 2025 Jan 21;6(1): 101847. (オンライン)	Original Article
184	Matsuoka T, Yamakawa K, Umemura Y et al.	救急医学	The transition of the criteria for disseminated intravascular coagulation and the targeted patients in randomized controlled trials over the decades: a scoping review	Thromb J. 2024 Dec 23;22(1): 112. (オンライン)	Review
185	Ihara K, Casillo F, Dahshan A et al.	内科学(神経)	Are we closer to achieving precision medicine for migraine treatment? A narrative review	Cephalalgia. 2024 Sep;44(9): 3331024241281518.	Review
186	Wada M, Yamagami W	産婦人科学	Immunotherapy for endometrial cancer	Int J Clin Oncol. 2025 Mar;30(3): 449-456.	Review
187	Nishio H, Matsuda R, Iwata T et al.	産婦人科学	Gastric-type adenocarcinoma of the uterine cervix: clinical features and future directions	Jpn J Clin Oncol. 2024 May 7;54(5): 516-520.	Review
188	Ikenoue S, Tamai J, Akita K et al.	産婦人科学	Origins of obesity in the womb: Fetal adiposity and its determinants	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Dec;50(12): 2178-2182.	Review
189	Hashimoto S, Nagoshi N, Nakamura M et al.	整形外科	Clinical application and potential pluripotent effects of hepatocyte growth factor in spinal cord injury regeneration	Expert Opin Investig Drugs. 2024 Jul;33(7): 713-720.	Review
190	Sugai K, Nakamura M, Okano H et al.	整形外科	Stem cell therapies for spinal cord injury in humans: A review of recent clinical research	Brain Spine. 2025 Feb 7;5:104207. (オンライン)	Review
191	Ozawa H	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Current management of carotid body tumors	Auris Nasus Larynx. 2024 Jun;51(3): 501-506.	Review

192	Tsuzuki N, Wasano K	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Idiopathic sudden sensorineural hearing loss: A review focused on the contribution of vascular pathologies	Auris Nasus Larynx. 2024 Aug;51(4): 747-754.	Review
193	Kono T, Ozawa H	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	A comprehensive review of current therapeutic strategies in cancers targeting DNA damage response mechanisms in head and neck squamous cell cancer	Biochim Biophys Acta Rev Cancer. 2025 Feb;1880(1): 189255.	Review
194	Endo Y, Shinoda M, Maehara J et al.	外科学(一般・消化器)	Early-onset hepatic veno-occlusive disease after liver transplantation: an institutional experience and analysis of a literature-based cohort	Surg Today. 2024 Jul;54(7): 670-682.	Review
195	Kono T, Ozawa H, Laimins L	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	The roles of DNA damage repair and innate immune surveillance pathways in HPV pathogenesis	Virology. 2024 Dec;600: 110266.	Review
196	Mori H	内科学(消化器)	Early detection and intervention in diabetic gastroparesis: Role of body surface gastric mapping	World J Gastroenterol. 2024 Dec 7;30(45): 4836-4838.	Review
197	Mori H, Suzuki H	内科学(消化器)	Cutting-edge insights into Helicobacter research	Free Radic Res. 2024 Oct;58(10): 641-647.	Review
198	Suzuki K, Akiyama M, Kaneko Y	内科学(リウマチ・膠原病)	Long-term efficacy of sarilumab on the progression of interstitial lung disease in rheumatoid arthritis: the KEIO-RA cohort and literature review	Clin Exp Rheumatol. 2025 Mar;43(3): 451-458.	Review
199	Mukai H, Kageyama S, Miura G et al.	精神・神経科学	Electroconvulsive Therapy and Akathisia: A Comprehensive Literature Review of Case Reports	J ECT. 2025 Mar 1;41(1): 5-11.	Review
200	Ito D, Okada K	メモリーセンター(メモリークリニック)	Rethinking antisense oligonucleotide therapeutics for amyotrophic lateral sclerosis	Ann Clin Transl Neurol. 2024 Dec;11(12): 3054-3063.	Review

計200件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	①・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	①・無
・ 手順書の主な内容 ・ 人を対象とする医学系研究およびヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する標準業務手順書 ・ 人を対象とする医学系研究における安全性情報の取り扱いに関する標準業務手順書 ・ 人を対象とする医学系研究およびヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する個人情報保護ガイドライン ・ 人体から取得された試料および情報等の保管に関する標準業務手順書 ・ 人を対象とする医学系研究およびヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する慶應義塾大学医学部倫理委員会標準業務手順書 ・ 慶應義塾大学医学部倫理委員会内規 ・ 慶應義塾における人を対象とする生命科学・医学系研究の実施に関する規程 ・ 医学部・病院 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する標準業務手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	①・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	①・無
・ 規定の主な内容 ・ 慶應義塾利益相反マネジメント・ポリシー ・ 慶應義塾利益相反マネジメント内規 ・ 大学病院臨床研究利益相反マネジメント内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 15 回
・ 研修の主な内容 < 倫理審査委員会の委員向けの研修 > ・ 委員会内研修会「はじめて学ぶ「研究への患者・市民参画（PPI : Patient and Public Involvement）」」（1回） ・ 治験・倫理審査委員会 委員研修（厚生労働省 臨床研究総合促進事業「臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム」）（1回） < 臨床研究の研究者向けの講習等 > ・ 臨床研究講習会（2回） ・ 臨床研究プロジェクトマネジメントワークショップ（1回） ・ 臨床研究プロトコールワークショップ（1回） ・ 臨床研究・治験従事者研修（厚生労働省 臨床研究総合促進事業「臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム」）（1回） ・ 臨床研究のための生成AI x プログラミング実践入門ワークショップ（1回） ・ 臨床研究発展研修会（1回） ・ 臨床研究推進啓発セミナー（6回）	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・ 地域医療を担う教育中核病院と緊密に連携した専門研修プログラムの設定
- ・ 定期的な臨床カンファレンス、および各専門領域における国内外のリーダーによるセミナー・講演会を開催し、双方向性討論の展開によりEBMへのアプローチを明確化
- ・ 臨床/研究セミナー・講演会のライブ型配信あるいは録画（オン・デマンド型）配信による先端医療知識と最新情報の共有
- ・ 高度な臨床スキルや手術的技能の修得のために、手術を含む種々の臨床手技シミュレーションを実践できるeラーニングコンテンツの提供
- ・ 情報リテラシー、EBM教育のために必要な電子書籍・雑誌の拡充
- ・ 高度な専門医療技術の修得、医療安全の向上を図るための医療シミュレーター機器を用いた専門臨床研修会の開催
- ・ Cadaverを用いたクリニカル・アナトミーラボ（臨床解剖ラボ）での基本手技と高度な専門診療技能の修得、高度な手術手技の熟練を目的とするセミナーの開催
- ・ 高度な先進医療や臨床研究の実施に欠かせない、医療倫理、研究倫理、医療安全に関するセミナーの開催、臨床研究に従事する者のeラーニング（Aprin）の必修化
- ・ 臨床研究中核病院としての臨床研究の研修
- ・ 地域がん診療連携拠点病院としての高度先進的がん医療の研修
- ・ 専門医研修プログラムの充実や情報共有を目的とした、本学と教育中核病院の専門医研修プログラム責任者会議の定期的開催
- ・ 海外の医科大学・医学部・病院との連携による国際化の推進

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	260 人
-------------	-------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者 氏名	診療科	役職等	臨床経験 年数	特記事項
家田 真樹	内科	教室主任・診療科部長・教授	30	内科統括
甲田 祐也	内科	専修医担当主任・専任講師	18	内科統括
安田 浩之	呼吸器内科	診療科部長・准教授	25	
金井 隆典	消化器内科	診療科部長・教授	38	
林 香	腎臓・内分泌・代謝内科	診療科部長・教授	21	
中原 仁	神経内科	診療科部長・教授	22	
片岡 圭亮	血液内科	診療科部長・教授	20	
金子 祐子	リウマチ・膠原病内科	診療科部長・教授	28	
志水 秀行	外科	教室主任・診療科部長・教授	39	外科統括
藤村 直樹	外科	専修医担当主任・助教	23	外科統括
尾原 秀明	一般・消化器外科	診療科部長・准教授	32	

朝倉 啓介	呼吸器外科	診療科部長・教授	23	
藤野 明浩	小児外科	診療科部長・教授	29	
林田 哲	乳腺外科	診療科部長・教授	28	
戸田 正博	脳神経外科	教室主任・診療科部長・教授	38	
山田 高成	麻酔科	教室主任・診療科部長・教授	25	
中村 雅也	整形外科	教室主任・診療科部長・教授	38	
貴志 和生	形成外科	教室主任・診療科部長・教授	37	
鳴海 覚志	小児科	教室主任・診療科部長・教授	24	
田中 守	産科	診療科部長・教授	39	
山上 亘	婦人科	教室主任・診療科部長・教授	25	産婦人科統括
根岸 一乃	眼科	教室主任・診療科部長・教授	37	
天谷 雅行	皮膚科	教室主任・教授	41	
舩越 建	皮膚科	診療科部長・准教授	24	
大家 基嗣	泌尿器科	教室主任・診療科部長・教授	38	
小澤 宏之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教室主任・診療科部長・教授	27	
内田 裕之	精神・神経科	教室主任・診療科部長・教授	27	
陣崎 雅弘	放射線診断科	教室主任・診療科部長・教授	38	放射線科統括
武田 篤也	放射線治療科	診療科部長・教授	31	
中川 種昭	歯科・口腔外科	教室主任・診療科部長・教授	40	
辻 哲也	リハビリテーション科	教室主任・診療科部長・教授	35	
佐々木 淳一	救急科	教室主任・診療科部長・教授	36	
関根 茂樹	病理診断科	診療科部長・教授	30	
佐々木 淳一	総合診療科	診療科部長・教授	36	
松下 弘道	臨床検査科	教室主任・診療科部長・教授	33	
山崎 理絵	輸血・細胞療法センター	センター長・教授	27	
金子 祐子	漢方医学センター	センター長・教授	29	
佐藤 和毅	スポーツ医学総合センター	センター長・教授	36	
林 香	血液浄化・透析センター	センター長・教授	22	
南宮 湖	臨床感染症センター	センター長・教授	19	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数	
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数	
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数	非該当

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	(2) 現状
管理責任者氏名	病院長 福永 興彦	
管理担当者氏名	事務局長 古田 正	

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	秘書室
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事統括室
		看護記録	医事統括室
		検査所見記録	医事統括室
		エックス線写真	医事統括室
		紹介状	医事統括室
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事統括室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事統括室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院学術研究支援課
		高度の医療の研修の実績	専修医研修センター
		閲覧実績	医事統括室
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事統括室
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事統括室 薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	電子媒体または紙媒体で保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部 医療安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医用工学室 医療安全管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医用工学室 医療安全管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医用工学室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医用工学室	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事統括室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	手術・血管造影センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者総合相談部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	人事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	総務課 経営企画室
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	業務監査室
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	経営企画室

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 福永 興壹
閲覧担当者氏名	総務課長 中島 愛子
閲覧の求めに応じる場所	病院が指定する会議室・相談室等
閲覧の手続の概要	
病院(病院長)が閲覧の諾否を個別に検討し、承諾した場合、病院が指定する場所で病院教職員の立ち会いのもと行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☒ 有・無
・指針の主な内容： 当院における医療安全管理体制の確立、医療安全管理のための具体的方策および医療事故発生時の対応方法等について、指針を示し、適切な医療安全管理を推進し、安全な医療の提供に資することを目的としている。 1. 医療安全管理に関する基本的な考え方 2. 組織および体制 3. 医療安全管理委員会の設置 4. 医療安全管理部の設置 5. 外部監査 6. 特定機能病院間相互のピアレビュー 7. 医療安全管理のための従業者研修 8. 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策 9. 医療事故等発生時の対応 10. その他医療安全の推進のために必要な方針 11. 患者への情報提供 12. 患者からの相談への対応	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・設置の有無（ ☒有・無 ） ・開催状況：年 12 回 医療安全管理委員会 当院における医療事故、医療紛争の発生を未然に防止する方策を審議し、医療事故発生時の解決策を策定することを目的とし設置されている。 ・活動の主な内容： 1. 医療安全管理のための指針に関する事項 2. 医療安全管理のための研修に関する基本的方針の決定と実施 3. 医療事故を未然に防止するための効果的な院内体制の確立 4. 当院において重大な問題、その他、委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査および分析、患者への対応状況の確認 5. 分析結果を活用した医療安全の確保を目的とした改善のための方策の立案および実施並びに従業者への周知 6. 改善のための方策の実施状況の調査および必要に応じた当該方策の見直し 7. 「医療安全管理委員会報告システム」を用いた実施状況の確認および確認結果を病院長ならびに医療安全管理責任者に報告 8. すべての死亡または死産事例に関する報告の実施状況確認、および確認結果の病院長への報告 9. 実施状況が不十分な場合における、従業者への研修および指導 10. 医療安全に資する診療内容等についてのモニタリング項目の策定 11. 医療事故に関する報告書の書式の制定 12. 医療安全管理マニュアルの作成および改正ならびにその内容の従業者への周知徹底 13. その他、病院長から指示された事項 委員会は上記について病院長に報告、必要に応じて提言をおこなう。	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・研修の内容（すべて）： 全教職員を対象とした計画に基づいた継続的な教育・研修の実施と評価、年度途中の入職者も含めた入職時研修・新人研修について、人事課を主管部署として教育・研修の機会を拡充した。 ・全教職員を対象とする教育・研修：2024 年度医療安全研修 ＜医療安全 1＞ 1. 2024 年度医療安全管理部活動指針 2023 年度インシデント・アクシデント報告集計結果 2. インフォームド・コンセントと意思決定支援 3. 医療放射線安全管理 4. 医療機器安全管理① 5. オピオイドの安全使用 6. 侵襲的処置（血管内/血管外） 7. 公益通報 8. 未承認新規医薬品・医療機器導入 9. 高難度新規医療技術導入 ＜医療安全 2＞ 1. 医薬品の安全管理 2. 身体抑制・身体的拘束 3. 医療機器安全管理② 4. VTE 対策 5. 医療事故調査制度 6. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の基本	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医療機関内における事故報告等の整備（ ☒ 有 ・ 無 ） ・その他の改善のための方策の主な内容： 1. インシデント・アクシデント報告：報告に伴う負担軽減 1) 報告書のフォーマット改修（影響レベル0-1/オカレンス報告用フォーマットの簡略化） 2) 表彰制度の運用継続（医療安全貢献賞、GOOD JOB賞） 2. 患者誤認防止対策 1) 患者誤認防止に関するマニュアルの見直し・改正 ①患者確認の原則の明確化 ②手順の整理：患者確認方法を実施場面ごとに分類・整理 2) 改正したマニュアルの周知 3) セーフティマネジャー対象としたミニレクチャー実施 4) 全教職員を対象とした動画配信 3. 術中迅速病理結果の正しい伝達・確認手順の明確化 1) 病理医が結果を正しく伝えるため以下を定めた ①誤認識を招きやすい用語を使用しない ②結果について、複数の表現を併用する 2) 伝達された結果の確認方法：執刀医(助手)は声に出して復唱する 3) 結果の記録：執刀医(助手)は伝達された結果を-診療録に記載する	

4. 医療安全管理マニュアル〈新規〉

- 1) 医療安全管理委員会報告システムⅡ ～死亡または死産時事例報告マニュアル～
- 2) 検査未読・未対応・緊急連絡マニュアル
- 3) 予防医療センターにおける鎮静マニュアル
- 4) 医療安全管理者業務に関する細則（「医療安全管理者業務に関する申し合わせ」廃止）
- 5) 医療安全管理委員会ラウンド（医療安全周知状況調査）の申し合わせ
- 6) 身体抑制最小化委員会内規
- 7) 診療科部門/診療施設部門/診療支援部門マニュアル
- 8) 迅速病理診断結果の正しい伝達・確認の手順

5. 医療安全管理マニュアル〈改正〉

- 1) 医療安全管理委員会報告システムⅠ
～インシデント・アクシデント・オカレンス報告マニュアル～
- 2) 慶應義塾大学病院医療安全管理部内規
- 3) 医療安全管理委員会内規
- 4) 呼吸管理ガイドライン
- 5) ドレーン・チューブ管理（シリンジの誤接続防止を含む）
- 6) 医療事故対応マニュアル
- 7) 中心静脈カテーテル挿入・管理
- 8) 死亡および死産時の対応
- 9) 救急カート運用手順/2次救急薬剤ボックス運用手順
- 10) 患者誤認防止
- 11) 検査未読・未対応・緊急連絡マニュアル
- 12) 経鼻胃管挿入・管理マニュアル
- 13) 静脈血栓塞栓症(VTE)予防マニュアル
- 14) 当院における手術・処置・検査等の休止及び再開の申し合わせ

6. 臨床倫理

患者の意向を尊重した意思決定(支援)のための手引き（アドバンス・ケア・プランニングのガイド）改正

7. 警鐘的事例の検証と再発防止対策の策定

8. 医療法に基づく医療事故調査委員会開催および結果に基づく再発防止対策の策定

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 「慶應義塾大学病院感染対策指針」 院内感染の防止、感染の制御、拡大防止のため、病院感染対策を全病院職員が把握して、感染源の速やかな特定、制圧、終息を図ることを本指針の目的としている。 病院の理念に基づき、患者の皆様および病院職員に安全で快適な医療環境を提供するため、感染防止および感染制御の対策に取り組むための基本的な考え方。 1) 病院感染対策に関する基本的な考え方 2) 感染制御部の設置 3) 感染対策運営委員会および感染専門委員会の設置 4) 職員研修 5) 感染発生状況の報告 6) 感染発生時の対応 7) 患者の皆様への情報提供と説明 8) 病院における感染対策の推進	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 18 回
・ 活動の主な内容： 1) 感染対策運営委員会 開 催：月 1 回（年 12 回） 2024 年度は 12 回開催した。 役 割：病院感染に関する報告事項を受けて、病院感染対策にかかわる具体的施策等を審議し、感染制御部（ICT）に助言を行う。 構成員：病院長、看護部長、薬剤部副部長、臨床検査科診療部長、大学病院事務局長、輸血・細胞療法センター長、食養管理室の部門代表者、臨床検査技術室長、滅菌管理部の部門代表者、ICT メンバーなど（27 名） ・ 主な報告内容は、薬剤耐性菌・血液培養陽性などの微生物検査結果の動向、病院内で発生している感染症の発生状況、抗菌薬など感染症治療薬の使用状況と適正使用に関する内容、手指衛生遵守率調査結果と改善活動に関する内容。 ・ 主な審議検討事項は、発生調査や感染対策の実施状況・内容について決定する。結果を受け、内容の評価を行う。 例：RS ウイルス感染症、疑いを含む結核、薬剤耐性菌複数発生などの際に、ICT からの情報をもとに患者隔離、当該病棟入院中の他患者への対応、新入院の制限実施、終息の決定。 2) 感染専門委員会 開 催：隔月（年 6 回） 役 割：感染制御部（ICT）が策定し、感染対策運営委員会が承認した感染防止に関わる施策等を、病院内の全ての部署に周知徹底し、迅速かつ確実に対策を実施する。各委員は、診療科内・部門内の教職員などで、感染症が発生した場合、情報収集や適切な初期対策を実施して、ICT に通報し、ICT と連携して対応に努める。 構成員：全診療科、全部門・全部署の代表者（55 名） ・ 主な報告・周知内容は、薬剤耐性菌・血液培養陽性などの微生物検査結果の動向、病院内で発生している感染症の発生状況と感染対策、抗菌薬など感染症治療薬の	

使用状況と適正な使用方法、各部門・部署での手指衛生遵守率調査結果・改善活動報告、結核の早期発見、血液曝露発生状況、院内感染対策教育の推進など。

感染専門委員の活動例：新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症、疑いを含む結核、薬剤耐性菌などの発生時に、ICTのリーダーシップのもと現場対応に協力する。

診療科・部門内で自らが主体的に取組み、主治医らへの指導、患者への説明、それぞれの情報の取りまとめなどを実施する。

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況

年 2 回

・研修の内容（すべて）：

1) 全教職員向け（年2回）

院内での感染・感染症発生状況、感染対策の基本的な考え方と具体的な方策・意識向上、抗菌薬適正使用を目標とした感染対策講習会（eラーニング）を年2回受講し、理解度確認テストを実施している。

2024年度感染対策講習会実施状況

公開日	講習会名	対象者・主な内容
6月27日	第1回 感染対策講習会 (必須研修)	【対象者：全教職員】 テーマ「低蔓延国になっても注意せよ！結核患者の対応と現場に潜む結核について」 1. 結核の最新知見と当院の役割 2. 結核と抗酸菌検査 3. 結核と抗結核薬 4. 結核事例と感染対策
10月28日	第2回 感染対策講習会 (必須研修)	【対象者：全教職員】 テーマ「SSI各種ガイドラインと最新知見・周術期抗菌薬・術前～術後」 1. 手術部位感染とは何か 2. 手術部位感染対策の実際

2025年3月末までに対象者全員（3,767名（第1回対象者）、3,604名（第2回対象者））が感染対策講習会を受講し、理解度確認テストを合格した。

2) 継続勤務者の教育

前年度から勤務を継続している教職員は、4月の時点で感染対策の必要性、実施状況などを確認するため「感染制御基本事項確認テスト」を実施している。内容は、手指衛生、標準予防策、抗菌薬適正使用などのほか、教職員に必要なワクチン接種状況を確認するものである。対象者は2,585名が実施した。

3) 医療従事者向け

2022年より医療従事者は職種に関係なく感染対策を実施するよう、スタンダードプリコーションライセンス制度を設けている。実技試験合格者はプラクティショナーと他者へ指導するインストラクターの二段構成。2024年のライセンス取得者は、プラクティショナー230名、インストラクター29名であった。

4) その他

職種や業務内容に応じて、手指衛生・防護具着用・結核用N95マスクフィットテスト、職業感染防止、医療器具関連感染防止などの実技を含む教育を対象別に実施している。

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備（ 有 ・ 無 ）

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染制御部（ICT）が中心となり、下記内容を実施している。

1) 各種サーベイランス

- ・ 血液培養
- ・ 薬剤耐性菌・抗酸菌など微生物別
- ・ BSI/UTI/VAPターゲット別サーベイランス（ICU、HCU、NICU、全病棟）
- ・ 心臓血管外科・呼吸器外科SSIサーベイランス。一般・消化器外科SSIサーベイランスは診療科実施に協力
- ・ 針刺し・切創/血液曝露
- ・ 手指衛生遵守率調査・防護具着用遵守率調査、手指衛生資材使用量調査
- ・ 消化器症状候群サーベイランス
- ・ 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、感染性胃腸炎など教職員感染症発生状況

2) 各種ラウンド

- ・ 微生物データにもとづく薬剤耐性菌・血液培養ラウンド 全274回
ラウンド目的詳細内訳は、血液培養陽性・薬剤耐性菌、血液培養以外の無菌検体の微生物検査報告であり、病院診療日は毎日実施し、個々の患者の診療に役立てるようにしている。
- ・ 許可制・届出制特定抗菌薬ラウンド（使用状況把握および介入） 全274回
届出の確認、使用理由・適正などを確認。必要があれば量と種類について担当医と相談。
- ・ 感染対策担当者、施設・清掃担当者の協働による施設環境ラウンド 全40回、延べ80部署
感染対策をすすめるうえで設備的な問題はないか、清掃が行き届いているか、現場での対策が実施できているかなどをチェックする。現場へのフィードバックを行い、その後の改善状況を把握する。各委員会へ報告し改善に努める。
- ・ デバイス 部署により 週1回～月1回
CVカテーテル、尿道留置カテーテル、その他の医療器具や患者環境など周辺を適宜確認する。
- ・ 網羅的ラウンド 23クール
手指消毒薬の配置、期限、トイレ、作業スペース、作業室、準備室などが仕様書どおりに運用され、感染対策に破綻がないかなど目的を限定し短時間でも全ての病棟をラウンドすることで、全体の傾向や変化を把握し改善にいかすことを目的に実施。5日で全病棟をラウンドする。
- ・ ターゲットラウンド
短期的に解決をはかるため、職員喫食スペース、病棟の蛇口清掃に関するラウンドを実施した。

3) 院内周知・教育

- ・ 感染対策マニュアル作成および改訂
- ・ 教職員ポケットハンドブック作成および改訂
- ・ ICTニュースと電子カルテCLIPシステムによる情報提供

4) 感染症診療と感染対策に関するコンサルテーション

- ・ 医師、看護師、コメディカルなどからの個別の相談に応じている。

5) 職業感染対策

- ・ 教職員健康管理部門である保健管理センターとの協働により下記を実施している。

- ◆ 針刺し血液曝露

- 発生時の24時間対応、発生後フォロー、針刺し低減のための対策

- ◆ 流行性ウイルス疾患

- 年1回インフルエンザワクチン接種機会の提供
 - 免疫未獲得職員へのワクチン接種および接種証明書類提出の個別依頼

6) 地域連携

- ・ 下記他施設との連携により、自施設を評価し、それに基づき感染対策の改善に努めた。

- ◆ 私立医科大学1校および感染対策向上加算 1 取得施設との年1回の相互ラウンド

- 日本医科大学付属病院との相互ラウンド

- 受入：11月28日 訪問：10月29日

- 国際医療福祉大学成田病院との相互ラウンド

- 受入：12月19日 訪問： 7月16日

- ◆ 感染対策向上加算2取得施設、外来感染対策向上加算取得施設、新宿区保健所、慶應医師会との年4回の合同カンファレンス

- 4月25日「診療報酬改定をふまえた、抗菌薬適正使用について」

- 7月11日「ワクチン情報 アップデート」

- 10月3日「新興感染症発生時の地域連携」(訓練)

- 1月16日「抗菌薬適正使用に関する教育について考える」

- ◆ 連携施設以外からの感染症診療・感染対策に係る相談 60件

- ◆ 新宿区立四谷第六小学校への手指衛生指導

- 2024年10月8日実施 対象：2年生2クラス70名

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
・研修の主な内容： 2024年4月配信 研修医・専修医オーダーリングトレーニング（研修医 61 名） 【研修内容】基本的な処方を入力操作を習得する。 2024年5月配信 静脈注射研修（看護師 127 名） 【研修内容】薬剤の基礎知識と管理を含めた講義と演習：静脈注射を実施するうえで薬剤の基礎知識と管理について 2024年4月 研修医オリエンテーション（研修医 61 名） 【研修内容】アレルギー情報の登録方法について 2024年4月10日から4月18日 研修医注射点滴実習「処方入力時の注意と点滴調製の手技」（研修医 61 名） 【研修内容】注射薬を無菌的に調製する方法を実際の薬を用いて実習する。凍結乾燥品のバイアル溶解し、補液へ混合しインスリンを加える。配合変化を体験してその回避方法を学ぶ 2024年4～5月 重点管理ハイリスク薬の運用・管理について（看護師 104 名） 【研修内容】当院の重点管理ハイリスク薬の注意点、今までのインシデント事例 2024年10月配信 医療安全研修 e-ラーニング必須研修（教職員全員：3604 名） 【研修内容】薬剤インシデントの傾向について、重点管理ハイリスク薬、未承認新規医薬品等の取扱いについて	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・手順書の作成（ ☒・無 ） ・手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 「医薬品の安全使用のための業務手順書」作成マニュアル（2023年改訂版）に沿って、医薬品の購入管理、調剤室の薬品管理、病棟・各部門への薬剤の供給、入院・外来患者への使用、情報収集・管理・提供、院内各部門における医薬品の取り扱いを定めている。 - 年に1回手順書の内容をチェックリストとして作成し、病棟外来看護師、医師、薬剤師、診療放射線技師、ME等の各診療科・部門のセーフティマネージャーに、手順書に基づいて業務が実施されているか確認している。その後、病棟・外来のラウンドを行い、チェックリストできていない部分や手順書で変更になっている部分を中心に確認している。	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：
 - ・ 2024年度に未承認等新規医薬品・医療機器評価委員会で審議された未承認薬は 0件、適応外・禁忌は 71件である。そのうち、適応外・禁忌は57件が承認された。
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 病棟配置薬削減に向けた取り組みを継続的に実施している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

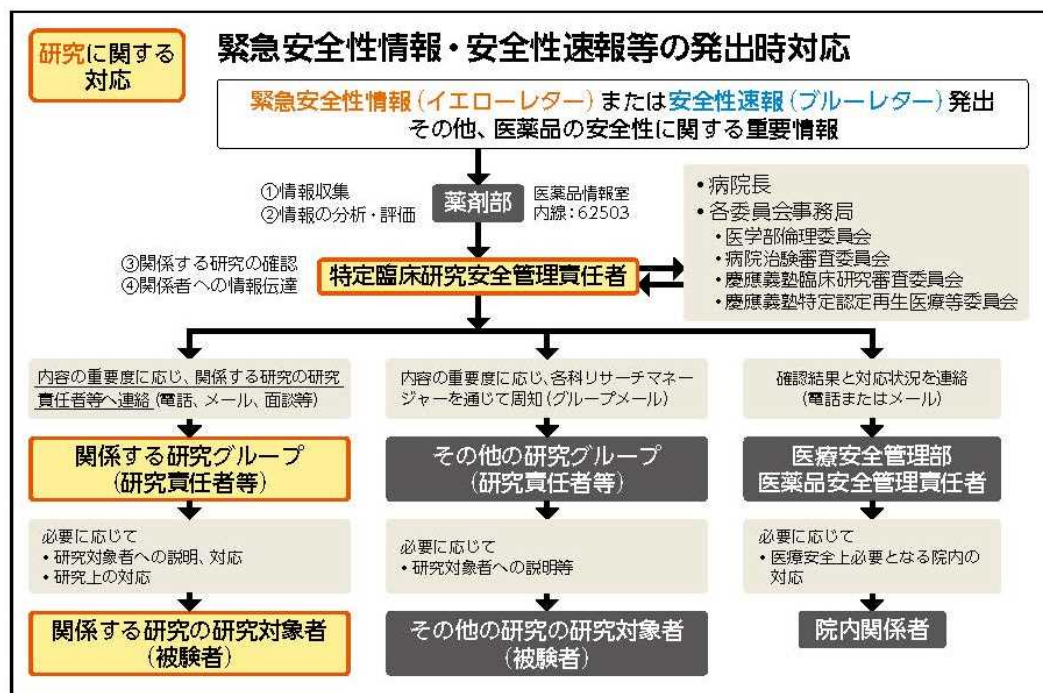
① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 103 回
・研修の主な内容： ・特定医療機器（人工呼吸器、人工心肺装置及び補助循環装置、除細動器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置）に関する研修：31回 ・一般医療機器に関する研修：8回 ・新規医療機器に関する研修：64回	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・医療機器に係る計画の策定（☒有・無） ・機器ごとの保守点検の主な内容： ・臨床工学技士による点検 除細動器、一部人工呼吸器 ・業者委託による保守点検 人工呼吸器、人工心肺装置及び補助循環装置、血液浄化装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、閉鎖式保育器 外来・病棟に配置している機器	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医療機器に係る情報の収集の整備（☒有・無） ・未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・未承認 眼内レンズ（AddOn toric-trifocal） ・適応外 パルスフィールドアブレーション ・その他の改善のための方策の主な内容： ・報告数の多い生体情報モニターに関する周波数一致によるインシデントへの対策を実施。	

（注）前年度の実績を記入すること。

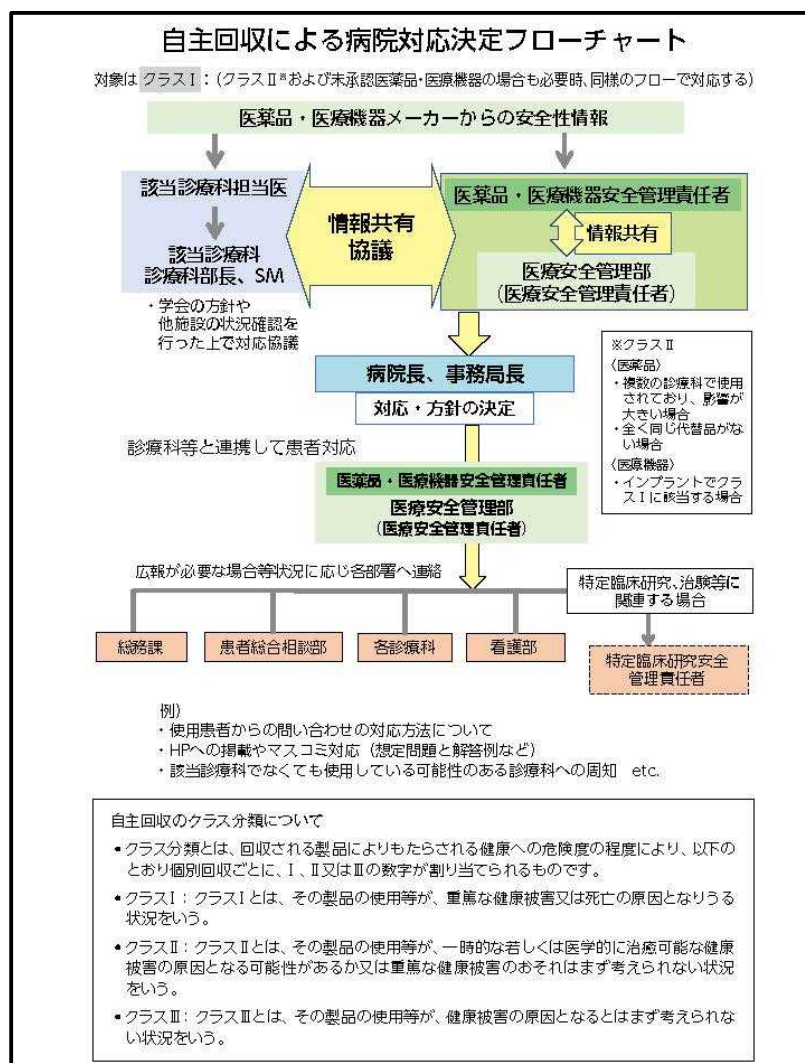
規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
- 責任者の資格（医師・歯科医師） - 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ・ 副病院長1名を医療安全管理責任者に配置。 ・ 医療安全管理責任者は医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者（薬剤師）、医療機器安全管理責任者（臨床工学技士）及び医療放射線安全管理責任者（医師）を統括している。 ・ 2018年4月1日より医療安全管理部門に専従医師を配置し、専従医師2名体制としている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（1名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
- 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 - 情報の整理（把握） 毎日 PMDA、厚生労働省、FDA などの web サイトを確認し、新規情報（安全性情報や学術情報など）を把握している。メディナビから送られてくる情報を併せて薬品添付文書（電子添付文書）、インタビューフォーム、製品情報概要、使用上の注意の解説、各種文献、問い合わせの回答などの情報を電子ファイルとして電子カルテ内に格納している。添付文書、インタビューフォームなどの改訂情報については、年 1 回定期的に各製薬会社に確認している。2022 年 4 月から病棟担当薬剤師から必要な情報を必要な医師へ適切に医薬品情報が提供できているか確認する体制が整えられた。 - 情報の周知 ➢ 「緊急安全性情報」や「安全性速報」が発出された場合ならびに「薬剤の自主回収（クラスⅠ）」の場合は、それぞれ院内で取り決めたフローチャートに従い、各職種へフィードバックしている。各フローチャートは教職員ポケットハンドブックで常時確認することができる（下図参照）。	
＜図 1＞ 緊急安全情報・安全性速報発出時の対応フローチャート	
緊急安全情報・安全性速報発出時の対応 緊急安全情報 緊急に安全対策上の措置をとる必要があると判断された場合、厚生労働省からの配布指示に基づき、製薬企業が作成する情報 安全性速報 緊急安全情報に準じ、一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な安全対策措置をとる必要があると判断された場合に、厚生労働省からの配布指示に基づき、製薬企業が作成する情報 緊急安全情報（イエローレター）または安全性速報（ブルーレター）発出 （下図参照） ← 特定臨床研究安全管理責任者 ← 薬剤部 医薬品情報室 内線：62503 ①情報収集 ②情報の分析・評価・使用患者の調査 ③関係者への情報伝達 イエローレターおよびブルーレターの記載内容によっては対応速度を早くする。 ・内容の重要性に応じて、各診療科の薬事委員に対し面談、電話、メール等の手段で連絡 ↑全診療科の薬事委員・業務師長へ一斉メール ↑イエローレターの場合、全診療科薬事委員・業務師長へ電話で連絡 ・薬剤マスターに医師処方入力時に注意喚起メッセージが出るよう設定 ・電子カルテのTOPページへの掲載 ・電子カルテの薬剤部ホームページ内に掲載 ・KIFへの掲載 ・当該薬剤処方患者の電子カルテ掲示板へ当該薬剤服用中の入力 ・医療安全管理部に内容と使用患者について電話またはメールで連絡 ・電子カルテCLIPへの掲載を依頼 ・薬剤部員に一斉メール ・薬剤部内のスタッフ、夜勤者、日直者に個別に連絡 ・当該病棟担当薬剤師に連絡 必要に応じ情報提供 診療科・看護部 患者さんへの説明および対応 院内関係部署 医療安全管理部 患者総合相談窓口 患者さんへの説明および対応、調剤時の対応（説明書添付など）、服薬指導等の対応、薬剤情報提供用紙の見直し 薬剤部 医薬品情報室 内線：62503 患者さん ※対応後は状況に応じて医療安全ラウンドとし、継続的な周知を目標とする。	

<図 2> 緊急安全情報・安全性速報発出時の対応（研究）フローチャート



<図 3> 自主回収による病院対応決定フローチャート



なお、最近では供給停止などの案件も多いことから、状況によって上記フローチャートと同様の方法で情報提供をしている。

- 「医薬品・医療機器安全性情報」が発出された場合は、各診療科の薬事委員を通じて全診療科へメールにて情報を配信し、同時に教職員イントラサイト（KIF）および電子カルテへ掲載し、必要に応じて別途書面も配布する。特に周知が必要な情報については、医療安全管理部のシステムを活用し、院内全体の閲覧人数が把握できるほか、閲覧していないスタッフには閲覧を促すことも可能である。さらに、病棟薬剤師が周知内容を確認しているかチェックを行っている。
- 「医薬品安全対策情報（DSU）」、「使用上の注意の改訂指示」が発出された場合は、当院での取り扱い品目に限り商品名を併記し、サマリーを追記した上で各診療科の薬事委員、薬剤部員へメール配信している。こちらにも必要に応じて、教職員イントラサイトおよび電子カルテへの掲載、書面配布などにより周知する。特に安全面で影響が大きいと考えられる事例では患者を検索し、薬事委員や専門医と連携して対応を検討し、薬剤部員への情報共有を行う。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

- ・未承認医薬品、医薬品の適応外使用、禁忌医薬品の使用状況や必要に応じた医師等への処方変更等の提案とその結果については、処方監査時の疑義照会記録や電子カルテのデータベース機能等を用いて把握し、定期的に（月1回）、使用の必要性等の確認と把握方法の見直しを行っている。また、必要に応じて、医師等に必要な申請や報告を促す等の指導を行っている。
- ・診療科部長より医療安全管理部に使用申請された、「未承認」「適応外」「禁忌」に該当する医薬品に関して、医療安全管理部と連携して申請内容を確認し、薬学的知見に基づき、必要性や論文等の根拠に基づくリスク検討の有無、妥当性等を確認している。
- ・医療安全管理部に申請され、承認された「未承認」「適応外」「禁忌」に該当する医薬品やその使用状況については、病院運営会議にて病院長へ報告し、病院診療会議にて院内へ共有している。

・担当者の指名の有無（☒有・無）

・担当者の所属・職種：

（ 所属：医学部・薬剤部， 職種：薬剤師 ）

（ 所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師 ）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

☒有・無

- ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（☒有・無）
- ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
 - ・インフォームド・コンセント委員会を設置し、その委員長を説明に関する責任者とした。
 - ・説明等の実施に必要な方法に関する規定として、インフォームド・コンセントガイドラインを定めている。
 - ・診療記録管理監査委員会内規に基づき監査を実施。結果は当該診療科および診療記録管理監査委員会、病院診療会議、病院運営会議にフィードバックしている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

☒有・無

- ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：
 - ・「診療録の記載に関するガイドライン」を作成。副病院長を委員長とする診療記録管理監査委員会が、「診療記録監査実施要項」を基に多職種による監査を行っている。結果は当該診療科および診療記録管理監査委員会、病院診療会議、病院運営会議にフィードバックしている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有・無
・所属職員：専従（ 12 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 8 ）名 うち医師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 4 ）名 うち薬剤師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： 1. 医療安全管理委員会で用いられる資料および議事録の作成・保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること 2. 医療事故等に関する診療録やその他診療記録の確認および指導 3. 医療事故等発生時の対応状況の確認および当該部門に対する指導 4. 必要に応じ患者又は家族への説明 5. 医療事故等の原因究明のための調査および分析 6. 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策の実施状況および評価結果を記録すること 7. 医療安全管理委員会との連携状況、院内研修の実績、患者等の相談件数および相談内容、相談後の取り扱い、その他の医療安全管理者の活動実績を記録すること 8. 医療安全管理委員会に決定した事項に基づき医療に係る安全確保や業務改善の方策立案および実施・評価ならびに従業者への周知 9. 医療安全に係る連絡調整に関すること 10. 医療安全に関する苦情や相談への対応と方策の立案および実施 11. 従業者の医療安全に関する周知活動とその確認 12. 医療安全に資する診療内容等についてのモニタリング 13. 医療安全対策に関わる取組みの評価等を行うカンファレンスを週1回程度開催し、医療安全管理委員会の構成委員および必要に応じて各部門の医療安全管理部の担当者等が参加していること 14. 他の特定機能病院間相互のピアレビューの実施 15. 未承認新規医薬品・医療機器評価委員会に関する事項 16. 医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者および医療放射線安全管理責任者の業務については、医療法施行規則第一条の十一の規程に基づき行う 17. その他医療安全対策に関すること ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 20 件）、及び許可件数（ 20 件） ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒有・無 ） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒有・無 ） ・活動の主な内容： ・高難度新規医療技術評価委員会の開催 ・実施報告書の提出 ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒有・無 ） ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒有・無 ）	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 93 件）、及び許可件数（ 83 件）
（申請件数－許可件数 10 件のうち、申請取り下げ 5 件、審査中 5 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・活動の主な内容：
 - ・未承認等新規医薬品・医療機器の使用の適否等について意見を述べる未承認等新規医薬品・医療機器評価委員会を設置する。
 - ・医療安全管理部長からの意見の求めに応じ、申請された未承認等新規医薬品・医療機器の使用に対し、倫理的・科学的な妥当性及び当該未承認医薬品・医療機器の適切な使用の適否、使用条件及び使用後に報告を求める症例等について審査を行う。
 - ・委員会は、科学的根拠が確立していない医薬品・医療機器については、科学的根拠の構築に資する使用方法について検討する。
 - ・委員会は、使用の適否、使用条件及び使用後に報告を求める症例について、医療安全管理部長に意見を述べる。
 - ・医療安全管理部長は、委員長からの意見を踏まえ、当該未承認等新規医薬品・医療機器の使用の適否及び使用条件等について決定し、診療科部門等の長に対しその結果を通知する。
 - ・医療安全管理部長は、診療録等の記載内容を確認し、当該未承認等新規医薬品・医療機器が適正な手続きに基づいて使用されたかについて、遵守状況を確認する。遵守されていないと認められる場合、使用を中止させることができる。また、使用後に対象患者が死亡した場合、その他必要な場合にも、同様に遵守状況を確認する。
 - ・医療安全管理部長は適否の判定結果、および各確認事項について、遅滞なく病院長ならびに病院運営会議に対し報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ 有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 365 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 230 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容：
 - ・死亡・死産症例は、医療安全管理部が管理日誌・周産期システム等により、全死亡・死産事例を把握し、報告書及びカンファレンス入力状況を医療安全管理委員会で報告している。
 - ・電子カルテ「CLIP インシデント報告分析システム」の報告書から問題点を把握し、事実確認を行っている。
 - ・カルテやヒアリング等で全体を把握し、根本原因を分析、安全確保のための方策を立案し、周知を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り
（ ☒ 有（ 病院名：日本医科大学付属病院 ）・無 ）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ
（ ☒ 有（ 病院名：日本医科大学付属病院 ）・無 ）
- ・技術的助言の実施状況
医薬品等の安全使用体制の状況について、向精神薬の各病棟への払い出しは、患者単位でなく、病棟単位で払い出されている点の改善等を行えばなお良いとの技術的助言を受け、向精

神薬の払い出しについては、現在の病棟単位での運用から、患者単位での管理へと移行する方向で各職種にて検討をしたが、当院における向精神薬の処方状況を把握するとともに、他施設での運用方法についても調査を行ったところ、当院にとって最適な運用体制は、病棟単位での払出が適していると判断した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

- ・患者さんやそのご家族が気軽に相談できるように、「総合相談窓口」を2号館1階（諸々の相談対応を行うエリア）に配置しており、窓口対応は病院診療日の原則、午前9時00分から午後4時00分で行っている（事前予約の必要なし）。また、相談方法は他にも、電話相談（窓口対応と同じ時間帯）、院内29箇所に設置されたご意見箱への投書、病院ウェブサイトの患者総合相談部のページには、医療相談、医療費や助成制度の相談、治験・臨床研究、医療安全に関する相談を受け付けるweb相談フォームや、患者さんからの当院に対するご意見・ご要望を24時間受け付けるweb投書フォームなど、患者さんの状況によって選択可能な多様な手段を用意している。
- ・相談内容に「医療安全に関する相談」を明記しポスター等で周知しており、安全管理に関する相談も前述した多様な手段で相談できるようにしている。
- ・相談窓口担当者には、看護師、MSW、事務職員を4名専従で配置し、他に非常勤の看護師1名と、臨床研究推進センター臨床研究実施部門より交替で看護師1名の6名体制に加え、相談対応のバックアップ要員として事務職員を4名配置し計10名体制で対応している。
- ・また、プライバシー保護に十分配慮しながら患者さんの声を傾聴し、必要に応じて医療安全管理部と連携を取ること、迅速かつ適切な対応をすること、相談においては患者さんと病院との中立的な立場を保ちながら対応することなどを心掛けている。さらに、患者総合相談部員として兼任医師を3名配置し、患者対応への医学的視点からのサポートならびに患者調査における分析および提言を行っている。
- ・他部署との連携による病院全体の医療安全と医療の質の向上を目的に院内各部門・部署に配置されているセーフティマネジャーと連携し、組織横断的な対応で問題解決に努めている。
- ・対応した相談内容は全例報告書を作成し、電子カルテ内の報告システム（CLIP）で情報管理をおこなうことで、医療安全管理部と相談内容の共有を行っている。
- ・医療安全管理部のスタッフも加わった患者サポートカンファレンス、患者サポート運営委員会を定期的実施し、また医療安全管理委員会においては、患者総合相談部より定例の月例報告と必要に応じた事例報告を行っており、相談内容の検討と情報共有を推し進め、医療安全機能の向上に努めている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・インフォームド・コンセント、診療録の管理、高難度・未承認、公益通報窓口に関する事項を含む内容をeラーニングで実施。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・管理者：
2024年12月12日受講 2024年度 特定機能病院管理者研修（継続）
- ・医療安全管理責任者：
2025年2月3日受講 2024年度 特定機能病院管理者研修（継続）

- ・医薬品安全管理責任者：
2025 年 2 月 14 日受講 2024 年度 特定機能病院管理者研修（継続）
- ・医療機器安全管理責任者：
2024 年 12 月 12 日受講 2024 年度 特定機能病院管理者研修（継続）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

- ・第三者による評価の受審状況
 - ・公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価「3rdG: Ver. 2.0・一般病院 3」の認定を受けている。
受審日：2022 年 9 月 13 日～15 日
認定交付日：2023 年 3 月 10 日（認定期間：2022 年 11 月 10 日～2027 年 11 月 9 日）
- ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況
 - ・病院ウェブサイト上で認定を受けていることを公表しており、「病院機能評価結果の情報提供」（機構ウェブサイトへのリンク）から受審結果の詳細を確認することができる。
- ・評価を踏まえ講じた措置
 - ・改善要望事項に該当する項目はなし。
 - ・審査結果報告の内容に基づき、B 評価項目（11 項目）および A 評価のうち課題のある項目（5 項目）を中心として、継続的な改善活動に取り組んでいる。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・基準の主な内容

1. 医療の安全の確保のために必要な資質および能力として、医療安全管理業務の経験を有し、患者安全を第一に考える姿勢および指導力を有する者
2. 当院を管理運営する上で必要な資質および能力を有し、当院内外での組織管理経験を有する者
3. 高度の医療を提供すること、高度の医療技術の開発および評価を行うこと、高度の医療に関する研修を行わせることなど、特定機能病院に求められる役割を十分理解し、その発展にリーダーシップを発揮できる者
4. 関係法令等を十分理解し、法令を遵守した病院運営を担える者
5. 安心・安全な医療の提供と、安定的な収益確保とのバランスを考えた健全で全体最適な病院運営を担える者
6. 次代の病院執行部の育成を担える者
7. 病院の社会的使命を十分理解し、その発展に努めることができる者
8. 病院開設者である理事長や常任理事会、行政その他関係機関との間で信頼関係を構築し、適切な連携を図れる者
9. 慶應義塾の専任教職員として、病院の管理者としての業務に専念できる者

・基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・公表の方法

- 病院ウェブサイトにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・ ☐ 無	
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法					
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無			☒ 有・無
・合議体の主要な審議内容 ・運営の方針 ・中期計画 ・予算案および決算に関する事項 ・各委員会等からの重要な提案事項 ・内規等の制定および改廃に関する事項 ・病院診療会議における周知・報告事項 ・その他、病院長が必要と判断した事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 ・毎月1回、合議体（病院運営会議）の協議内容を周知する病院診療会議にて、全部門長への周知を行っている。また、あわせて特に重要な周知事項を全職員へメールにて配布し、各部署内で周知がなされたことを、部門長から病院長へ報告することとしている。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（☐有・☒無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（☒有・☐無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
福永 興壱	○	医師	病院長
戸田 正博		医師	副病院長
佐々木 淳一		医師	副病院長 COI 委員長
金子 祐子		医師	副病院長
内田 裕之		医師	副病院長 患者総合相談部長
鳴海 覚志		医師	副病院長
朝倉 啓介		医師	副病院長 医療安全管理部長（医療安全管理責任者） 手術・血管造影センター長 診療記録管理監査委員長
山上 亘		医師	病院長補佐
加藤 元彦		医師	病院長補佐
本間 康一郎		医師	病院長補佐
古田 正		事務員	病院事務局長
加藤 恵里子		看護師	看護部長
武林 亨		医師	医学部長
林 香		医師	副医学部長
村松 博		薬剤師	医薬品安全管理責任者
平林 則行		臨床工学技士	医療機器安全管理責任者

陣崎 雅弘		医師	医療放射線安全管理責任者
南宮 湖		医師	感染制御部長
吉村 公雄		医師	医療政策・管理学専任講師
平松 真理子		医師	医療安全管理副部長
森岡 大智		事務員	病院事務局次長（経営企画担当）
田原 祥子		事務員	病院事務局次長（総務担当）
上野 圭祐		事務員	病院事務局次長（総務担当）
三保谷 照和		事務員	病院事務局次長（情報担当）
市川 二葉		事務員	病院事務局次長（医療安全担当）
中山 泰徳		事務員	病院事務局次長（学術研究支援・調達会計担当）
鈴木 和久		事務員	病院事務局次長（医事担当）
山下 幸一郎		事務員	病院事務局次長（管財担当）
片岡 美樹		事務員	医療連携推進部次長
岩田 光晴		事務員	病院秘書室長
矢崎 久妙子		事務員	予防医療センター事務長
小林 佳郎 （オブザーバー）		医師（外部有識者）	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター院長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・☐無 ）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容
 - ・ 病院長は、病院管理者として大学病院を代表し、病院業務全般を統括する。
 - ・ 病院長は、大学病院で行われる診療、教育、研究およびそれらに関する諸活動について、その実施を許可し、停止を決定する。また、実施状況について報告を求め、是正改善等を命ずることができる。
 - ・ 各診療科および診療部門の長は、病院長が指名し、塾長が任命する。
 - ・ 病院長は必要な場合にいつでも診療科部長等の権限を停止し、代行者を指名することができる。
 - ・ 診療科部長等の解任は、病院長の上申に基づき塾長が決定する。後任者が任命されるまでの間、病院長は代行者を指名することができる。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 職名：副病院長
役割：病院長を補佐し、病院長が不在の場合はその職務を代行する。
 - ・ 職名：病院長補佐
役割：病院長の定める職務に基づき、病院長を補佐する。
 - ・ 職名：病院経営企画室
役割：病院内外の情報を戦略的・集中的に管理し、大学病院の経營業務に関連する企画、立案、事業計画、予算、調整に係る業務を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 管理者に求められる資質のひとつである医療安全管理業務の経験を踏まえ、副病院長全員が医療安全管理委員会に参画している他、若手医師を病院長補佐に登用することで役職経験を通じた人材の育成を図っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					☒ 有・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 1. 病院長、医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者等から報告を求め、必要に応じて自ら確認する。 2. 必要に応じ、塾長または病院長に対し、医療に係る安全管理については是正措置を講じるよう意見を表明する。 3. 1および2に掲げる監査結果を公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒有・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒有・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒有・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒無 ） ・ 公表の方法： ・ 病院ウェブサイトにて公表						
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）						
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況	
山口 徹	国家公務員共済組合 連合会 虎の門病院 名誉院長	○	虎の門病院の元病院長であり、病院管理者として医療安全に携わり、幅広い知識と豊富な実務経験を有する。また現在は、日本医療安全調査機構の顧問として日本の医療安全の推進と教育に尽力されている。	有・ ☒ 無	1	
宇都宮 啓	公益財団法人 日本建築衛生管理 教育センター 理事長 他		厚生労働医官として永年にわたり国内の医療行政に従事するとともに（2018-2019:健康局長など）、WHOにも派遣され、医療安全および国際的基準での対応について幅広い知識と 国内・国外における経験を有する	有・ ☒ 無	1	
竹下 千尋	コーリング法律事務所 代表弁護士		法曹界に身をおき、法律についての豊富な専門知識と実務経験を有する。	有・ ☒ 無	1	
福井 トシ子	国際医療福祉大学大 学院 副大学院長		日本看護協会の元会長であり、永年にわたり看護界を牽引され、看護管理者および看護教育者として、患者安全管理について十分な知識と実務経験を有する。	有・ ☒ 無	1	
山口 育子	認定 NPO 法人 ささえあい医療人権 センターCOML 理事長 他		医療を受ける者の立場を代表する患者支援団体の理事長として、医療安全についての知識を有する	有・ ☒ 無	2	

（注）「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

- ・ 慶應義塾長（開設者）の下に設置されている業務監査室が実施する業務監査において、大学病院長の管理および運営に関する業務が適切に遂行されているかを診断し、あわせて法令遵守の観点から提言を行う体制となっている。
- ・ 監事による病院監査、医療法に基づく立入検査等と同席するとともに、病院業務監督ボードによる監督状況を踏まえ、病院の管理運営状況について法令遵守の観点から検証を行っている。
- ・ 上記に加え、2022年度から業務監査室が病院の法令遵守状況について現場から直接情報収集する仕組み（執行部・管理職・その他スタッフへの定期的なアンケート調査、ヒアリング等）を整備し、監査を通じて指摘・改善を行うことでPDCAサイクルを回す取り組みを行っている。

・ 専門部署の設置の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ ☒ 無 ）

・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 ・ 病院担当常任理事を委員長とする会議体を設置。 ・ 病院が社会的使命を果たし、経営の健全性を確保し、その維持・向上に取り組んでいることを確認するため、病院長による病院の管理・運営の状況について点検・監督等を行うことを目的とする。 ・ 会議体の実施状況（ 年 11 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有・無 ）（ 年 11 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒ 無 ） ・ 公表の方法			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：慶應義塾大学病院業務監督ボード			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
北川 雄光	慶應義塾 常任理事	○	☒ 有・無
工藤 禎子	株式会社三井住友フィナンシャルグループ 取締役執行役副社長（代表取締役）		有・ ☒ 無
高木 誠	東京都済生会中央病院 名誉院長		有・ ☒ 無
堀内 光一郎	富士急行株式会社 代表取締役社長		有・ ☒ 無
松田 健太郎	慶應義塾 塾監局長		☒ 有・無

（注）会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法 ・ 慶應義塾大学ウェブサイト・総務課のイントラサイトに掲載、教職員ポケットハンドブック・病院ミッションカードに記載、全教職員対象の必須研修において全教職員に周知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 病院ウェブサイト、冊子（総合案内、病院広報誌「すゝめ」）等により随時発信を行っている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 慶應義塾大学病院規程において、より良い治療を患者に提供することを目的として、複数の診療科や部門の教職員が対等な立場で組織横断的に連携・協力してチーム医療を実施するにあたっての活動単位を「診療クラスター」と位置付け、活動している。	